

30周年記念

わがまち

あわた

平成14年2月

粟田町内会

30周年記念

わがまちあわた
平成14年2月

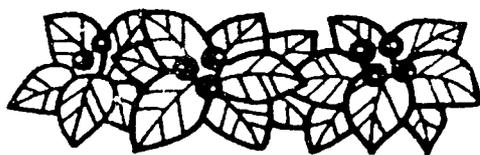
栗田町内会



現町内会館 昭和55年5月完成

目 次

はじめに	町内会長 近 藤 幸 雄	4
30年の歩み		6
4 分別収集をお願いして		20
分別収集モデル地区はなぜ粟田町内会だったのか		21
粟田の4 分別モデル事業の思い出		22
粟田ゴミ奮闘記		23
町 熟 す		25
ただただ感謝		26
すぎたこと		27
近隣の史跡		28
史 跡 巡 り		31
日本一のマンモス校だった粟田小学校の思い出		32
粟田に住んで		34
粟田池でザリガニ釣り		34
粟田のこれから		35
粟田町の一角で		36
俳 句		37
町の団体紹介		38
同好会の紹介		42
粟 田 音 頭		52
粟田町内会区画図		53~54
世帯数と人口の推移		55
年度別役員表		56
町内会の組織		61
おわりに		62



表紙・中扉の題字..... 増田 和子
(1-32-20)

.. 30年の歩みの中から ..



昭和44年4月 左手前スーパー用地



昭和45年頃



青空総会 昭和46年4月



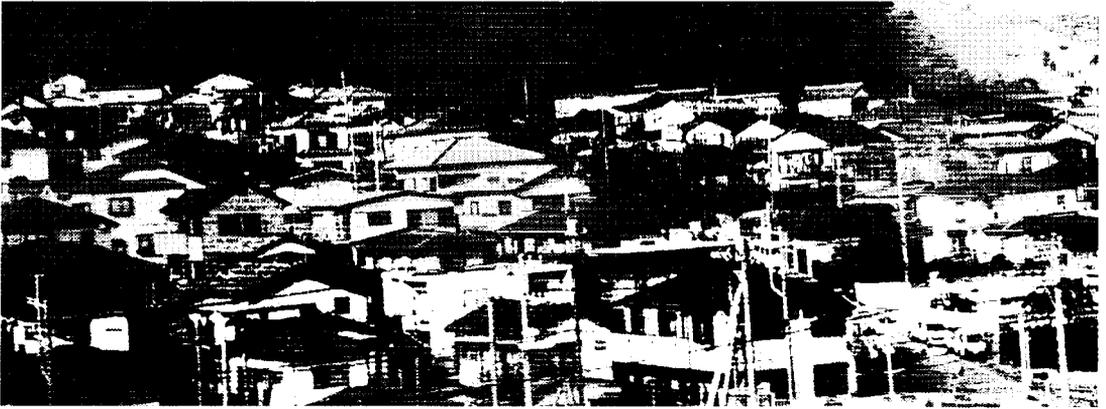
旧町内会館 昭和47年



昭和50年8月、正副2旗作製し
立派な粟田町内会旗が出来た



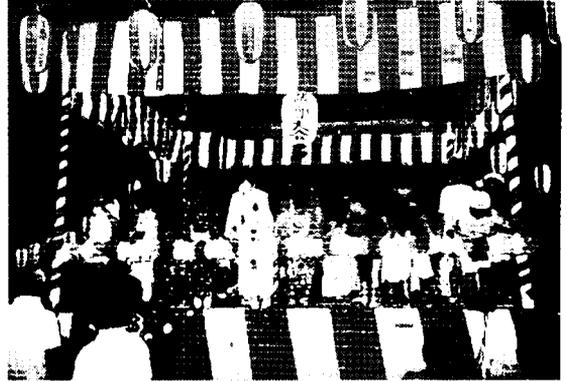
昭和48年頃の粟田



栗田小学校の屋上から見た現在の栗田町内



納涼大会準備 平成13年8月4日



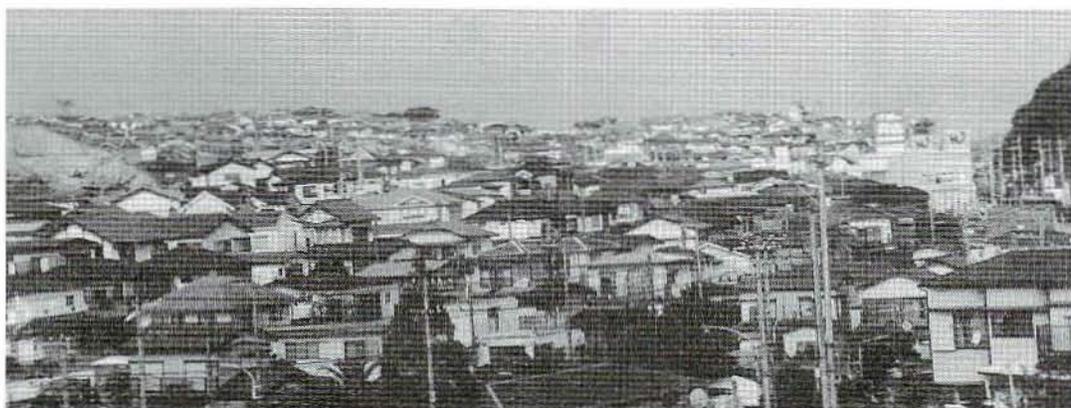
納涼大会 びよんびよん踊り
平成13年8月3・4日



バス旅行 平成13年9月
食べ放題のぶどう園で



敬老祝賀会の様子
平成13年10月8日



平成13年11月1日



文化祭 力作並ぶ
平成13年10月28日



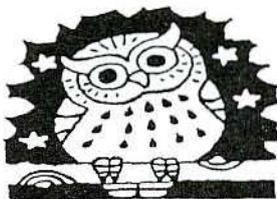
社会福祉法人 あじさい園
平成13年9月20日工事開始



現在の中央公園

は じ め に

粟田町内会長 近 藤 幸 雄



粟田町内会は30年を迎えました。この時を記念して「わがまちあわた」を発行しようと、役員は話し合ってきました。予算も認められ、編集委員の快諾も得られて約1年。記念誌をお手許に届けられることになりました。

粟田町内会は昭和45年1月18日「野比北町内会」として60世帯で発足し、昭和50年4月、市の町名変更で「粟田町内会」になりました。「明るく住みよい町づくり」を標語に、お互いに協力し合ってきましたが、今も先輩方の築いた有形無形の努力の跡を私達は引き継いでいます。

私は町から外へ出ていくと、「粟田の皆さんは仲がいいですね。」とか「よく活動されますね。」と言われることがあります。とてもうれしく思います。粟田は1500世帯という、市でも幾つもない大きな町です。これをまとめているのは理事会です。19人の理事は担当地区内のよいまとめ役をしながら、町内全般にわたる幾つかの大きな行事を運営しますが、町内会に関係する諸々の会と協調して円満な活動をしています。一つ一つの行事が無事に終わって来た時、お互いに良い人間関係が生まれてきたことに気がつきます。この一人ひとりの行事参加と達成感は、粟田の人の心をより広く、より強くしていくものであると思います。

平成14年末には粟田2丁目に介護保険制度による特別養護老人ホームが開設されます。社会福祉法人「あじさい園」で、常時介護80床、短期入所10床、デイサービスの通所15人で、必要とされる方に提供されます。町内にこのような施設ができることは、有り難いことです。これからの粟田は「長寿の町」になります。高齢者が楽しく安心して暮らせる町をみんなで作りましょう。

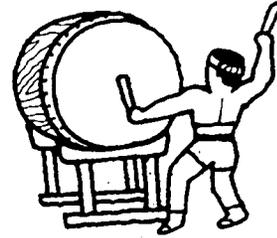
今年市がゴミの4分別収集を始めることになり、モデル地区として粟田が選ばれました。4月から9月までの町の成績は、達成率95%で優秀。資源回収もトップクラスだそうです。これに抜群の貢献をしているのは緑会で、特に70名の会員は、毎月1回の資源回収には主力として奉仕し、市でも特別高い評価をしています。ここに至るまで、皆様には苦労や苦痛をおかけしておりますが、我慢と忍耐でご尽力下さっていることを、心より感謝します。

町内には色々の仲よしグループがあります。社会奉仕に行くグループもあるようですが、静かに活動しているので人には知られていません。同好会も増え、後掲のように活気に満ちて活動し、町内会館1階は午前も午後も空気が殆んどありません。この他粟田小学校の体育館、グラウンド、三浦藤沢信用金庫の2階、公園なども活動の場となっています。

園芸愛好会のように自分の趣味を楽しむだけでなく、町内会の大きな行事には展示会を開

いて見ていただき、植替えや剪定のアドバイスまでお手伝いする同好会もあり、ゲートボール部は、小学生、中学生を仲間に入れて、心の輪を広げています。歴史散歩の会も何倍かに増え、ハンドマイクは他の迷惑になるので、プリント説明に替えるなど町内会の同好会は発展の途を進んでいます。最近珍しい同好会が誕生しました。「ニコニコクラブ」です。会員の年齢が1才から4才まで。よい指導者に恵まれ盛会です。また、ボランティアが心温かい活動をしている「ほのぼの会」は、高齢者におしゃべり会や趣味の会の奉仕を続けています。最近市でも幼児や高齢者のための会を始めました。先進的活動といえます。防災活動も地域では最先端で、他の町から役員が見学に来ています。

粟田の納涼大会は相変わらず人気があります。舞台の上でリーダーとなって下さる緑会舞踊部の方々。響く太鼓は斉藤英治さん。ともに粟田の文化財です。8時半頃になると会場の中央公園は満員で売店（体育振興会、青少年活動推進の会、子供会、ほのぼの会、商店会等）は大繁昌。



この数年珍しい人の輪が、何ヶ所か見られます。子供達の舞台への出番、「ビョウキョウ踊り」の頃です。他の地域に住む粟田出身者が、子供を連れての里帰り。懐かしい顔が踊りを見ながら食べながら大きな声で安否を語り合う風景は同窓会。ふと粟田が「ふる里」になっていることに気がきます。30年の町づくりが実ってきたのではないのでしょうか。

隣接地YRP「光の丘」は将来町内会を作りますが、その時には「野比粟田連合町内会」に入れてほしいという要望があり、連合町内会の会長会議で承認されました。YRPは現在内外の40企業体の世界最先端の情報通信技術の研究、開発の拠点となっています。やがて粟田の青年が今よりもっと大勢歩いて通勤する職場になることを期待しています。

我が町粟田は、これからも一段と明るく楽しい町として開けていくと思います。そのためにみんなで力を合わせて助け合い、協力し合う町づくりをしましょう。

最後に忘れがちなことですが、私達の町は24時間、守られているということです。野比消防所（南消防署管内）深夜も救急車待機、佐原交番（浦賀警察署管内）深夜1時～4時パトカー及び警察官が巡回、待機。我が町粟田は守られています。



30年の歩み

〔昭和45年1月～平成2年5月〕

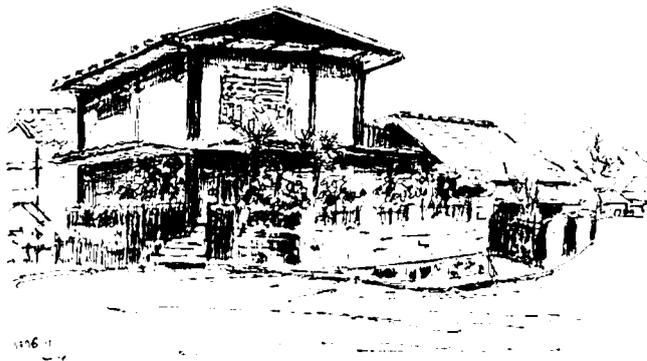
- 昭和45年1月 町内会設立総会が開催された。全60世帯、出席者41名、委任状16名
- 昭和46年2月 バスが岩戸から延長され、野比駅まで運行開始
- 昭和47年1月 プロパンガスの集中方式から、都市ガスへ全戸切り替えられた。
- 4月 野比北町内会館が竣工した。
- 昭和48年2月 県道の信号機が設置された。
- 4月 横須賀市立栗田小学校が開校
- 5月 第一種住宅専用地域として指定された。
- 10月 非常災害時の通報サイレン施設が完成した。
- 昭和49年9月 サイレン施設の有効利用として、一定時刻に音楽を放送することにした。
- 10月 住居表示の変更に伴い、公募の結果、栗田と決定した。
- 昭和50年3月 町内会発足5周年記念として、「町のあゆみ」を発行した。
- 4月 新住居表示の実施により、定時総会で町内会名を「野比北」から「栗田」に、
又、15区画から19区画に変更した。
- 7月 シンボルマーク入り町内会旗は、公募により、五十嵐長儀氏の作品に、また
「明るい町づくり」の標語は、大鳥弘江様の「町の和はまずお早ようと笑顔
から」が入選した。
- 昭和50年9月 町内居住の高齢者に対して、敬老祝金を贈呈した。
- 10月 県立音楽堂で開催された「昭和50年交通安全県民総ぐるみ大会」で、神奈川県警本部長より交通安全優良町内会として表彰された。
- 12月 非常災害時の通報サイレン施設用地を、第百土地株式会社から（野比123番地58、地目山林166.7㎡を購入した。）
- 昭和51年1月 町内居住の新成人に対し、祝品を贈呈した。
- 1月 成田金治郎町内会長が、町の発展に尽力したとして、横須賀市長より表彰された。



96 11 Y

- 2月 「粟田音頭」は、作詞山本正治氏、作曲小林淡動氏の作品が選定された。
- 3月 中央公園に公衆トイレ設置。
- 8月 子供会が、県立青少年センターで優良子供会として表彰された。
- 11月 子供会が、交通安全運動に協力したことにより、横須賀市からまた、浦賀交通安全協会・浦賀警察署から表彰された。
- 昭和52年 9月 横須賀市立野比中学校が開校
- 10月 川内惣助氏が、美化運動推進の功により、京浜急行電鉄株式会社から表彰された。
- 10月 町内会が、都市公園の美化と都市緑化の努力に対し、建設大臣から表彰を受けた。
- 11月 町内会館に電話が設置された。
- 昭和53年 2月 川内惣助氏が、美化運動推進の功により横須賀市から表彰された。
- 3月 横須賀市立野比中学校卒業生に、北下浦青少年活動推進の会名で、記念品を贈呈した。
- 4月 バスが増発され、早朝焼木坂発野比行きが5時42分、野比駅発焼木坂方面行きの最終バスが22時に運行されることになった。
- 10月 中央公園の公衆トイレが水洗化された。
- 10月 昭和52年度の婦人部の活動に対して、横須賀市長から表彰された。
- 11月 町内会が、交通安全の啓蒙と技術指導に顕著な功績があったと、浦賀警察署長から表彰された。
- 昭和54年 5月 加藤正元氏が、永年に亘り町内自治活動に尽力した功により、横須賀市長から表彰された。
- 12月 臨時総会が開催され、町内会館改築の件につき慎重審査の結果、会員の負担を軽減する旨の決議を付して賛成多数で可決された。
- 昭和55年 6月 横須賀市長ほか関係者により、町内会館新築落成祝賀会が催された。
- 10月 子供会が、交通安全運動に協力したことにより、神奈川県交通安全協会から、同様の趣旨により、町内会長が神奈川県警本部長から表彰された。
- 12月 浦賀警察署粟田駐在所が開所され、大坪巡査が着任した。
- 昭和56年 3月 町内会館建設借入金15ヶ月間で完済した。
- 11月 町内会が防犯活動及び防犯連絡所の整備拡充に協力したことにより、浦賀防犯協会・浦賀警察署長から表彰された。
- 昭和57年 5月 子供会が、交通安全子供自転車大会で優勝し、県大会でも10位に入賞し表彰された。
- 7月 商店会が子供みこしを作ったことのほか、山車も参加することから町内会とは別組織として、みこし世話人会を発足させた。

- 昭和57年12月 子供会が、交通安全活動で関東管区警察局長から表彰された。
- 昭和58年 8月 「燃せるごみ」・「燃せないごみ」のごみ分別収集が実施された。
- 12月 町内会が多年に亘り、警察行政に協力したことに對して、浦賀警察署から感謝状が贈られた。
- 昭和59年 6月 町内会設立後満15年にあたるので、定時理事会の決議により、「15年誌刊行」が決まった。
- 昭和60年 9月 粟田在住の70歳以上の方は、男性57名、女性72名の計129名となり、前年より13名増え、粟田でも高齢化の波がよせてきた。
- 昭和61年11月 粟田文化賞が設定され、ゲートボールチーム及び子供ソフトボールチームが受賞した。
- 昭和63年 2月 水曜会が、10年に亘りボランティア活動を行ったことに對して、横須賀市長賞を受けた。
- 平成元年 5月 山本正治氏が、地域自治活動と福祉の増進に長年奉仕したことに對して、横須賀市長から表彰状が贈られた。
- 平成 2年 2月 近藤会長・小室副会長が建設準備委員として関わってきた岩戸自治活動センターが完成した。
- 5月 町内会設立満20周年にあたり、「20年誌刊行」が決議された。



〔平成3年度〕

- 5月12日 第21回定期総会、出席46名、委任状916名、常任理事新設の議案も含め、全議案可決承認された。
- 6月15日 粟田子供会は青少年問題協議会会長並びに横須賀市長より表彰された。
- 7月7日 クリーンよこすか運動の野比海岸清掃に52名参加。
- 8月1日 第16回粟田納涼大会、町内会役員理事、婦人部、子供会、緑会、商店会が総力をあげて準備や会場設営進行後片付けと大活躍の納涼大会であった。1日、飾り
- 8月3日 付けが午前中で終わり、夕方は商店会主催の金魚すくい、7時から納涼踊り大会。2日、7時からフォークダンスの初登場で外国人居住者も加わった。3

日日、子供神輿と山車の巡行と夜は踊りの輪が三重になる程盛大であった。

- 7月末 市の下水道部による雨水樹液工事（1635個）が終了した。
- 9月15日 敬老祝賀会、満70才以上の方は本年は217名、内出席者は86名。
- 9月29日 粟田町内会バス旅行、90名参加。（小田原城－小涌園－箱根湿生花園）
- 10月20日 第13回健民運動会、参加者約1,000人、優勝粟田2丁目、準優勝粟田1丁目。
- 11月10日 第15回粟田文化祭、会館1階は書道、絵画、写真、工芸、魚拓、俳句、菊鉢などの展示。2階は緑会茶道部の茶席。公園入口には子供作品展。園内では盆栽愛好会による200余点の鉢ものの展示と即売。婦人部によるおでんの販売。野比中学吹奏楽部による演奏会が催された。

この日に粟田文化賞の授与も行われた。

長谷川 みき氏（舞踊）

内田 さか氏（茶道）

- ・水曜会（同好会）が横須賀第一第二老人ホームでの15年に及ぶボランティア活動に対して県社会福祉事業団設立30周年記念式典で感謝状授与。
- ・赤い羽根共同募金 519,965円
- ・年末たすけあい募金 498,895円

12月8日 中学生バレーボール大会で野比部会選抜粟田町内チームが優勝。

1月28日 市長より町内会功労者表彰。篠崎幸生氏。

3月8日 久里浜マラソンで粟田チーム優勝。

[平成4年度]

- 4月1日 世帯数1,409、人口4,522人
- 5月 赤十字募金 550,113円
- 6月20日 野田房子氏、青少年育成活動により市長の感謝状授与。
- 6月28日 クリーンよこすか野比海岸清掃、61名参加。
- 7月30日～8月1日 第23回納涼大会。
- 8月29日 粟田小学校創立20周年記念行事として、粟田小学区ふるさと夏祭りが行われた。
- 8月30日
- 9月15日 敬老祝賀会、70才以上225名の内80名参加。
- 9月27日 町内会バス旅行（日本平、登呂遺跡方面）126名参加。
- 10月18日 子供会粟田ヤングファイターズ優勝。
- 10月18日 第14回健民運動会、約800名参加。
- ・赤い羽根共同募金 1,236戸 525,971円
 - ・年末たすけあい募金 477,870円

11月8日 第16回町内会文化祭。

屋内展示は書道146点、絵画40点、手工芸32点、館外では盆栽100点、子供会による「やきそば」婦人部による「おでん」の販売。野比中吹奏楽部による演奏。
粟田文化賞贈呈、西川義正氏、佐久間虹竹氏、野比中校長新倉正昭氏

12月1日 民生委員がきまる。

竹内博子氏、堀規矩子氏、近藤美年子氏、小林千枝子氏

2月 後藤常正氏、日本赤十字社より表彰。

2月15日 近藤幸雄町内会長、横須賀市長より表彰。

3月14日 第4回久里浜地区駅伝大会で、男子チーム、女子チーム共に優勝。

[平成5年度]

- ・平成5年度総会、会員総数1,279名、委任状949名、出席46名、町内会所有の会館と上地の名儀が役員個人になっている事実と、その対策として町内会の法人化について積極的に検討することが承認された。
- ・粟田ヤングファイターズ、市長杯で優勝し、県大会初出場が決定した。
- ・日本赤十字募金、1,261世帯 543,190円
- ・青少年指導員の斉藤清子氏に市長より感謝状。

7月4日 クリーンよこすか野比海岸清掃に65名参加。

7月31日 第24回粟田納涼大会、炭鉾節、横須賀音頭、粟田音頭などの踊り、幼児らの踊り、模擬店として焼きソバ、焼きもろこし、焼鳥、おもちゃ、焼イカ、金魚すくい、

8月1日 かき氷、レモンティ。福祉施設下町作業所のうちわ、鍋敷などの販売。2日目は子供みこしと山車の巡行。

8月28日～29日 粟田小学校区のふるさと夏祭り。

9月15日 敬老祝賀会、70才以上224名中72名参加。

9月26日 町内会バス旅行（宝登山と長瀨）参加152名。

10月24日 第15回健民運動会。

11月7日 粟田文化祭、出品数187点、婦人部によるおでんの販売、野比中吹奏楽部による演奏会。二階では「ふよう会」による茶席の接待。
文化祭に際して町内会より感謝状の贈呈。

五十嵐清子氏、天田晴基粟田小校長、山下勉生氏。

11月14日 ソフトボール大会で粟田ヤングファイターズが初優勝。

- ・粟田町内会交通安全母の会、県知事より感謝状授与。
- ・赤い羽根募金 562,081円
- ・年末たすけあい募金 478,504円

3月13日 久里浜地区駅伝大会に参加。

[平成6年度]

5月8日 平成6年度定期総会。栗田町内自主防災規定改訂の件と法人化調査研究の件を検討することが決められた。

- ・町内会館の土地は市より借用しているが、この4月から料金値上げとなる。
年間67,320円。来年以降も連続値上げとなる見込み。

6月12日 防災訓練実施。

6月19日 地域防犯研修会開催。

- ・防災費集金、各世帯200円。1,305戸で261,000円。
- ・赤十字募金、1,279戸 542,550円

6月26日 クリーンよこすか、野比海岸清掃。

7月13日 栗田小学校の余裕教室、地域に解放されることが決定した。

7月29日～30日 栗田納涼大会。

9月15日 敬老祝賀会、該当者237名中91名参加。

9月25日 栗田町内会バス旅行、138名参加。

(身延山久遠寺、下部温泉、朝霧高原、白糸の滝)

10月16日 第16回健民運動会、栗田2丁目は3位、栗田1丁目は4位。

11月6日 栗田文化祭、出品数192点、婦人部による「おでん」「焼そば」の販売。野比中の吹奏楽は雨天のため中止。

栗田文化賞受賞、星野昭二氏、本田示氏。

11月4日 町内会館の第3公園に水道が設置された。

11月27日 防災訓練実施、110名参加、起震車の体験、煙ハウスの体験、消火器の取扱い。

1月18日 星野昭二氏市長より感謝状授与。

2月 栗田町内の防災用水槽(地下式)

中央公園、1丁目第2公園(トンネル公園)、2丁目第2公園(竹内造園前)、2丁目第6公園の4箇所。

1基40t、合計160t、1基の貯水量は消防車2台で約20分放水。

3月12日 久里浜地区駅伝競走大会、優勝は栗田町内会Aチーム、栗田学区小学生Aチーム。

[平成7年度]

5月14日 平成7年度定期総会、委任状872名を含め942名。規約改正で会の法人化に対応出来るよう、条文が全面的に見直された。また防災部が町内会組織として織り込まれた。また町内会費が4月から月額400円に決定した。

4月1日 世帯数1,486、人口4,494人。

6月11日 防災訓練、参加者118名。消火器の取扱い。三角巾による応急手当の訓練。緊急時の避難場所は先ず中央公園、次に栗田小学校、最終的には岩戸学校群となって

いる。

- ・緑会が表彰される。(クリーンよこすか運動推進) 緑会の清掃、社会奉仕、廃品回収の努力に対して、市委員会より。
- ・赤十字募金(阪神大震災の義援金409,420円) 506,500円。
- ・防災対策が更に進む。

7月4日、災害時用の軽トラックを購入。

自主防災指導員の資格取得。

消火器の増設と防災訓練の計画など。

6月25日 クリーンよこすか海岸清掃。

- ・青少年活動で市から表彰。勝山昭子氏。
- ・横須賀市はごみダイエット推進制度を作る。推進委員に下記の3名が委嘱される。

南信子氏、酒井美穂氏、後藤明美氏。



7月28日 納涼大会、参加者約800人。

緑会舞踊部、仲よし会の人たちのリードで踊りの輪が三重にもなり、体振・商店

7月29日 会・青少年活動推進の会・下町作業所・アメリカ人有志の各出店も賑わった。

二日目は午前午後と2回、みこしと山車の巡行。夜は前夜と同じ踊りの輪と出店で賑わった。

9月15日 敬老祝賀会、70才以上270名、99名参加。

9月23日 防災訓練。

9月24日 町内会バス旅行、141名参加。(宮ヶ瀬ダム)

10月15日 第17回健民運動会。

- ・緑会の社会福祉活動が評価される。神奈川新聞、日本老友新聞で紹介。

11月5日 粟田文化祭、「我が町粟田再発見」をテーマに、地元の遺跡からの出土品なども展示。

この際、町内会長から感謝状が贈られた。

榎崎まつい氏(クリーンよこすか)

丸山克彦氏(前粟田小校長)、寺本勲氏(野比中校長)

- ・赤い羽根共同募金、1,272戸、518,041円。

10月 町内会館の修繕、外壁などの修理、白蟻の駆除、公園階段の半分を手すりつきのスロープに改善。

- ・崖くずれ対策、町内の3箇所、緊急度により数年の間に実施。

11月20日 粟田ボランティアの会(ほのぼの会)発足、会員26名。

代表 竹内博子氏、副代表 堀規矩子氏。

- 11月25日 防災訓練、参加者172名、地震体験、煙中避難体験、とん汁の炊き出し体験等。
 ・歳末たすけあい募金 1,238戸 509,831円
- 12月1日 民生委員の改選、山内信子氏、小倉イソ子氏、近藤美年子氏、小林千枝子氏。
- 12月1日 社会福祉推進委員も12名の方が委嘱。
 阿比留章子氏、黒川敏子氏、児玉三枝子氏、坂口恵美子氏、松木淇江氏、鈴木幸子氏、松沢敏子氏、佐藤昭子氏、山田日出子氏、飯塚和子氏、新宮キミ氏、新宮茂氏。
- 1月 市長より町内会功労者表彰。高石武氏。
- 2月15日 緑会へ市長から感謝状。
- 3月18日 第1回三浦藤沢信用金庫粟田支店長杯、ゲートボール大会で粟田チームが優勝、準優勝。

〔平成8年度〕

- 5月12日 平成8年度定期総会、出席56名。委任状817名。
 ・簡易郵便局開設が近く実現、スーパーグレート付近。
 ・粟田小学校にデイケアセンター開設の予定。
 ・近藤町内会長、野比粟田地区連合町内会長に選任される。(15町内会)
 ・赤十字募金、1,282戸 550,610円
- 6月24日 粟田簡易郵便局再開。(スーパーグレート2階)
- 6月22日 防災訓練実施、参加者130名。
- 4月1日 町内会世帯数1,497戸、人口4,494人
 ・交通安全母の会へ県警本部長より表彰状が贈られる。
- 6月30日 クリーンよこすか、野比海岸清掃、62名参加。
- 7月2日 町内会館一部改修工事完了。
- 7月6日 鈴木寿子氏(青少年指導員)市長より感謝状。
- 7月26日～27日 納涼大会開催、初日の夜は踊りが盛大に行われる。参加者700名以上。
 二日目昼は山車、神輿の巡行、夜には沢田横須賀市長が来訪。
- 9月8日 青少年ウォークラリー実施。
- 9月15日 第20回敬老祝賀会、70才以上の対象者280名、本年度から75才以上(162名)を招待、内出席者51名。演芸として子供会の合唱と器楽合奏、尺八と唄マジック、南京玉すだれ。屋外では粟田園芸愛好会の盆栽の展示。
- 9月29日 町内会日帰りバス旅行 参加114名(昇仙峡)。
- 10月13日 第18回健民運動会、優勝粟田1丁目 準優勝粟田2丁目。
- 11月10日 粟田文化祭、屋内には245点の作品展示、屋外には80点余の盆栽の展示とフリーマーケット、そして恒例の野比中学生による吹奏楽の演奏。

- ・秋の共同募金 563,846円
 - ・歳末助け合い募金 521,881円
- 11月30日 防災訓練、起震車による地震の体験、煙ハウスによる煙中避難、消火器の取扱い、とん汁の炊き出し。
- ・粟田の「ほのぼの会」、会員はただいま28名、高齢者の買い物の手伝い、病院への付添い、薬とり、散歩の付き合い、お話し相手などの奉仕活動。
- 1月17日 市長より町内会功労者表彰。
丹沢晃一路氏、松本禮次氏。
- 2月7日 粟田老人デイサービスセンター開設。粟田小学校「和室」完成、地域に開放。
- 3月3日 久里浜地区駅伝競走大会、小学生の部、粟田学区V3達成。
- 3月30日 第11回北下浦ふるさとマラソン大会。

[平成9年度]

- ・平成9年度定期総会、出席60名、委任状779名。
 - ・赤十字募金、1,282世帯、550,616円。
- 5月29日 近藤町内会長は北下浦地区文化振興懇話会会長に就任。
- 6月14日 防災訓練、152名参加。南部消防署と第18消防分団の人たちによる指導。
- 6月16日 大懸象治郎氏、クリーンよこすか市民委員会大会に於いて表彰される。
- 7月5日 中村好勝氏、市長表彰。
・防災機器強化、消火器合計63基となる。
- 8月1日～2日 納涼大会、2日間で約1,400名の参加。踊りには外国人も加わり、フラダンスも披露された。2日目の昼には山車と神輿の巡行。
- 9月15日 第21回敬老祝賀会、75才以上177名中49名参加。
- 9月27日 粟田ウォークラリー（粟田青少年活動推進の会）実施。
- 9月28日 町内会日帰りバス旅行、172名参加。（伊香保方面とりんご狩り）
- 10月1日 横須賀リサーチパーク（YRP）オープン。町名は「光の丘」となる。
- 11月2日 粟田文化祭、500余名参加。
屋内展示作品、170点。屋外では園芸愛好会による盆栽の展示、婦人部による「おでん」の販売。子供会はフリーマーケットと手作りパンの出店。野比中吹奏楽部による演奏。
粟田文化賞贈呈、荒川徳数氏。
- 11月22日 防災訓練、雨のため会館内で防災懇談会に変更、50余名参加。
・年末たすけあい募金 500,005円
・粟田園芸愛好会が中央公園に花壇を設営する。
- 2月3日 市長より表彰状授与される。

小室隆章氏、小原信男氏。

- 2月1日 日本赤十字社県支部長（県知事 岡崎洋）より感謝状贈呈。
近藤幸雄氏（町内会長）
- 2月15日 市制91周年記念式で市長より表彰状贈呈。
大懸象治郎氏（緑会々長）、近藤幸雄氏（町内会長）。

〔平成10年度〕

- 5月10日 平成10年度定期総会、出席58名、委任状842名。
・栗田の世帯数1,515。人口4,331名。（4月1日現在）
- 5月22日 赤十字募金、1,301件、528,662円。
- 6月1日 防災車の車庫、町内会館脇に完成。
- 6月7日 北下浦ボランティアセンター開所。（長沢駅前、高木ビル内）
- 6月27日 地域青少年育成の功勞により表彰。
青少年指導員 勝山登氏、佐々木みさを氏。
- 6月28日 クリーンよこすか、野比海岸清掃、55名参加。
- 7月31日 第29回納涼大会。
） 緑会舞踊部、仲良し会の踊り、シャイニングのハワイアンダンス。神輿・樽みこ
- 8月1日 し、山車の巡行、7グループの夜店。
- 8月23日 栗田ヤングファイターズ優勝。
- 8月30日 栗田青少年活動推進の会によるウォークラリー。
- 9月12日 防災訓練、器材の操作など。
- 9月15日 敬老祝賀会、75才以上、54名出席。
- 9月現在 崖崩れ危険指定地域の工事着工。
- 9月現在 公共下水道幹線工事始まる。
- 9月27日 町内会日帰りバス旅行（奥多摩）171名参加。
- 10月4日 第20回栗田学区健民運動会。
- 10月25日 第22回栗田文化祭、屋内出品300点。
屋外は園芸愛好会の鉢物。おでんの販売。野比中吹奏楽部の演奏。
栗田文化賞の授与。石ヶ谷千恵子氏、浪形治美氏、棚橋寿子氏。
- 10月 「北下浦文化マップ」完成、各家庭へ配布。
- 10月22日 赤い羽根募金、1,294件、527,620円。
- 10月 ミニバスケットボール大会、優勝ジュニアリーグ部、第3位女子リーグ部。
- 12月3日 年末助け合い募金、1,274件、502,030円。
- 1月25日 町内からYRPへの遊歩道開通。
- 2月28日 ミニバスケットボール大会で優勝。

- 3月23日 地域交流ゲートボール大会、2丁目第3公園。
参加地域、佐原・岩戸・新岩戸・ハイランド・野比・粟田（11チーム）

〔平成11年度〕

- 5月9日 第29回定期総会、出席数62名、委任状910名。
5月 赤十字募金、1,304世帯、
550,035円。
・粟田の世帯数1,543 人口4,307人
(4月1日現在)
- 6月1日 郵便ポストの新設（カメ
さん公園入口脇）
- 6月26日 防災訓練、参加130名。
- 6月26日 粟田青少年育成活動の坂口
彰氏、市長から感謝状授与。
- 6月27日 野比海岸清掃、参加者53名。
- 7月30日 第30回納涼大会。
7月30日……夜の踊り、1,100人～1,200人参加、子供の踊り、3回延べ120人。
- 7月31日 7月31日……夜の踊り、900人、子供の踊り、3回延べ100人。
- 9月12日 青少年ウォークラリー、少年30名参加。
- 9月15日 敬老祝賀会、75才以上201名中参加者75名。
- 9月26日 日帰りバス旅行（川越とぶどう狩り）
- 11月13日 防災訓練。
- 11月 横須賀市ソフトボール大会で粟田ヤングファイターズが準優勝。
- 10月31日 粟田文化祭、室内80数点の展示。屋外では園芸愛好会による山野草、盆栽等の展
示、婦人部によるおでんの販売、野比中吹奏楽の演奏。
粟田文化賞受賞、竹内育男氏、前粟田小校長北村勲氏。
- 11月8日 北下浦自治活動センターが「北下浦市民プラザ」と名称。
- 11月21日 子供会対抗駅伝大会、3位入賞。
- 12月 年末たすけあい募金、1,272件、545,500円。
- 12月5日 横須賀市民駅伝大会、5位入賞。
- 3月19日 久里浜マラソン大会、男子1位・小学生1位。
- 3月23日 地域交流GB大会、3位入賞。
- 3月25日 北下浦ふるさとマラソン大会、上位入賞。



[平成12年度]

- 5月14日 第30回定期総会、出席50名、委任状884名。
- 4月 ゴミ収集方法が変わり、8月から市で初の「モデル地区」に指定される。
- 6月4日 第47回市社会福祉大会で表彰される。
阿比留章子氏、黒川敏子氏、松沢敏子氏。
- 6月16日 クリーンよこすか市大会で表彰される。細川好氏。
・赤十字募金、1,301件、557,660円。
- 6月10日 防災訓練、約120名参加。(三角市の使用方法、消火器の取扱い、バケツリレーによる消火訓練)。婦人部のオニオンスープの炊き出し。防災保存食の配布。
- 7月2日 野比海岸清掃、参加者44名。
- 7月9日 粟田GB大会、ジュニアとシニアの対戦。
- 7月10日 全市町内会長会議で市長から表彰。
大懸象治郎氏、本田示氏。
- 7月28日～29日 納涼大会。初日には沢田市長、青木市会議長、粟田小学校安田校長、元粟田小学校天田校長来場。参加者約1,000人。翌日は子供の樽みこしと山車の巡行。
・粟田の世帯数1,545。人口4,289人。(6月現在)
- 8月27日 子供会対抗ソフトボール大会(追浜会場)
粟田ヤングファイターズ、昨年につき準優勝。
- 9月10日 粟田ウォークラリー(粟田青少年活動推進の会)
・厚生大臣特別表彰。近藤美年子氏。
- 9月15日 敬老祝賀会、70才以上382名。招待者75才以上216名、出席者64名。町内子供会代表10名による合唱合奏。
マダム・アラモードによる、シンセサイザー・琴・フルートの合奏。
- 9月24日 町内会バス旅行(白糸の滝、富士国際花園忍野八海)。121名参加。
- 10月29日 第24回粟田文化祭。午前は雨のため室内展示作品。屋外では婦人部のおでんと焼きいも、子供会のおしるこの出店。
第15回粟田文化賞は園芸愛好会へ。
・赤い羽根共同募金 1,273件、545,744円。
- 11月12日 子供対抗駅伝大会(日産追浜工場)で粟田子供会はハイランド子供会との協力で優勝。
- 11月18日 防災訓練。野比消防所、第18分団消防団の15名と町内会の防災指導員6名による実践訓練、とん汁の炊き出し訓練。90名参加。
・中央公園に大時計設置(ソーラー式)
・年末助け合い募金、1,252件、523,100円。
- 11月28日～29日 会館の修理(床板、ネダの取り替えと畳表替え)

- 12月1日 ゴミトーク第1回、150名参加。
- 12月10日 ゴミトーク第2回、32名参加。
- 12月18日 ゴミトーク第3回、35名参加。
- 12月23日 ゴミトーク第4回
- ・町内会館外階段修理、滑り止め防止板取付け。
- 2月15日 「まちの美化に貢献」市長表彰。細田好氏。
- 1月29日 2丁目第3公園改修。
- ↳ ・山側と会館側、鉄柵延長63m。
- 2月26日 ・公園入口の階段半分をスロープに変更。
- 3月14日 野比粟田連合町内会長、近藤幸雄氏。浦賀警察署長より感謝状を贈られる。
- 3月 ごみダイエット推進員、次期委嘱者は小野さち子氏、渡辺穎子氏、塚本美保子氏。

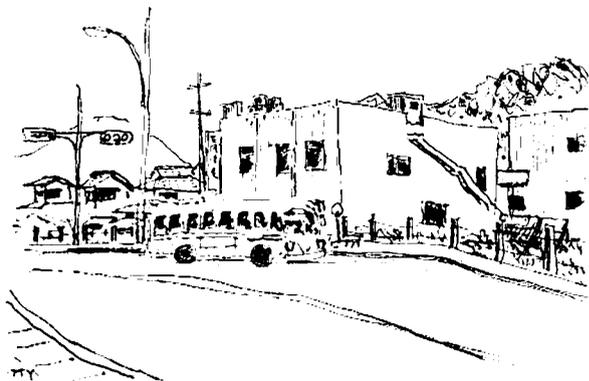
〔平成13年度〕

- 5月13日 平成13年度定期総会、会員1,335名、出席60名、委任状894通。
- 町内会館が避難所になっており、安全基準が変わり耐震構造にするための調査と予算の貯えをすることになった。
- ・粟田の世帯数1,558。人口14,212人。（4月1日現在）
 - ・赤十字募金、1,291件、546,201円。
- 6月3日 隣接の「光の丘」の帰属決まる。YRPトンネル側の3棟（3ヶ月～1年位の入居）は、長沢の杉釜だが、研究所群はすべて粟田の隣接地で、将来住宅群ができるとYRPの児童は粟田小へ通うようになる。野比粟田連合町内会は受け入れを了承した。当分の間、周辺地域の折衝は近藤会長が代行する。
- 6月16日 防災訓練、参加者110名。
- 6月23日 クリーンよこすか市民のつどいで、感謝状が贈られる。西野英子氏。
青少年活動推進大会で市長より感謝状が贈られる。山田善久氏。
- 6月24日 クリーンよこすか野比海岸清掃。
- 7月26日 市長より町内会功労者表彰。斉藤英治氏。
- 8月3日 第32回納涼大会。
- ↳ 初日、商店会の金魚すくい、青少年活動推進の会、体振、ほのぼの会、子供会等
- 8月4日 の売店。緑会サークルの踊りに幼児も参加。沢田市長、青木市議、安田粟田小校長来会、参加およそ400名、二日目は子供みこし、大人みこし、山車の巡行、夜は踊りの輪で賑わった。
- 9月 特別養護老人ホーム「あじさい園」建設始まる。（粟田2丁目20番地北側）
- ↳ 山林2,100坪、そのうち1,400坪を開発、敷地445坪、地下1階地上3階鉄筋コン
- 14年12月 クリート造り。（1. 特別養護老人ホーム 2. ショートステイ 3. デイサー

ビス 4. 在宅介護支援センター)

- 9月7日 「安全の町」として県知事より表彰される。
- 9月8日 「ウォークラリー」粟田青少年活動推進の会主催、実施された。
- 9月30日 町内会バス旅行（ハツ岳高原～一の宮ぶどう狩り）127名参加。
- 9月開設 「ふれあいいきいきサロン」町内民生委員、ほのぼの会運営。
（町内会館、毎月第2金、AM9:30）
- 10月8日 敬老祝賀会、町内会役員、婦人部のおもてなし、50名参加。
小学生のリコーダー合奏、マダム・アラモードの演奏。
- 10月28日 粟田文化祭、書、絵画、手工芸、写真等の展示。屋外では園芸愛好会の盆栽の展示、婦人部によるおでんの出店。
粟田文化賞の授与、善吉一氏、竹内博子氏。
- 12月1日 民生委員の改選、近藤美年子氏、小林千枝子氏、小野さち子氏、縣雅子氏。
- 12月8日 防災訓練。参加者150名 野比消防所、消防第18分団協力。
煙ハウスによる避難訓練。起震車体験。バケツリレー消火。消火器による消火。
五日飯、豚汁の炊き出し。三角巾による応急手当
子供会に防災に関する標語募集をした結果発表。応募者数 28名。標語数 37。
低学年の部 入賞 押さないで 駆け出さないで あわてない 1年 宇田川愛美
高学年の部 入賞 小さな火 小さな油断 火事のもと 4年 酒井 陽輝
中学生の部 入賞 震災時 いざという時 あわてずに
備えておこう 防災用品 中学 成田 光佑
佳作 (成井千影 安部望美 酒井彦輝 中根章子)
入賞者 佳作者には賞品、参加者全員に参加賞が贈られました。
- 平成14年2月 粟田町内会発足30周年記念誌発行。

記 山本正治・松本禮次
え 山本正治



〈特集〉 ゴミ 4 分別収集元年

〔粟田がゴミ4分別のモデル地区になった際、直接担当した3人の市の職員の方々に寄稿をお願いしました。〕

4 分別収集をお願いして

横須賀市環境部環境指導課長 野 田 穰 治

新しくごみの4分別収集を始めるにあたって、モデル事業をお願いしてからいつのまにか季節も一巡をはるかに過ぎ、本格実施からも一年が経とうとしている昨今、粟田町内会の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

4分別も順調に定着し、昨年の広報紙で全市民にお知らせいたしましたとおり、ごみの減量化資源化とも予想以上の成果を上げることができました。顧みれば、平成12年の4月末に我々自身も先が見えない不安を抱えたまま、粟田町内会に4分別収集のモデル地区をお引き受けいただくためのお願いに訪れてから、ご町内を挙げての大変にご熱心なお取り組みをいただき、他に先駆けて大きな成果を上げていただいたことに深く感謝申し上げます。

4分別収集という本市にとっても全く経験がなく、市民の方にとっても大きな負担を強いる収集を始めるにあたって、我々自身も分からないことが多く、本格実施前に試行して見る必要がありました。試行といっても、施設も整っていない中で闇雲にあちらこちらで行えばいいというものでもなく、どこの地区にお願いをすれば効果的か検討を重ねました。我々が考えた条件は、①その地区の市民の皆様の環境に対する意識が高く、②町内会・自治会活動が活発であること、③他の未実施の地区のごみが混ざらないよう地区が明確に区分できること、④新しく整備するリサイクルセンター（現アイクル）への南地域からの運搬ルートを検証できること、⑤リサイクルセンター（現アイクル）の試運転に必要な量のごみ量があること、などの条件に当てはまるご町内を探した結果、まさにぴったりと当てはまったのが粟田町内会でした。そしてお願いに上がったわけですが、早速にお引き受けいただいた上に、説明会を重ねる間に、温かい激励をいただきましたことは、忘れられない思い出となりました。

その後の、ご町内を挙げてのご熱心な取り組みによって、短い期間で目に見えて向上した分別内容などから、我々の選択が正しかったことが裏付けられ、それ以上に収集作業・説明の仕方などの面での所期の目的を達成することができ、平成13年4月からの本格実施に生かすことができました。

また、粟田町内会が30周年を迎えられることお祝い申し上げます。その記念誌の中に、紙面を頂戴いたしましたこと、光栄に存じます。

ここに今後の更なるご協力をお願いいたしますとともに、この間のご協力を改めて厚くお礼を申し上げます。



分別収集モデル地区はなぜ粟田町内会だったのか

横須賀市環境部環境第一事務所長 進 藤 研 治

横須賀市は、「容器包装リサイクル法」の完全実施のため、平成13年4月から新たなごみの分別収集を全市一斉に始めることは、すでに決定していました。

平成12年4月、そのためのいろいろな準備の中で、もっとも私の頭を悩ませ、不安にさせていたのは、実施する以前に避けてはおれない「モデル地区」を決め、地元町内会にお願いし、承諾をしてもらえなければならないということでした。

地区の選定には車両台数、人員数、他の町と接していないなど様々な条件があり、なにより、地域のごみに対する意識が高く、積極的に取組んでいることが重要なことでした。世帯数は1,500~2,000。こんな条件をクリアする地区があるのだろうか、と悩んでいたら、上司からの助言もありましたが、3月に偶然お会いする機会があり、お話を伺った近藤会長の顔が浮かびました。

その時、会長の「ごみ問題は、行政だけではできない。地域が主体的にならなければ絶対にうまくいかない。」といわれた言葉がすごく印象に残っていました。

そこで、上司である野田課長に相談をしたところ、課長は3月まで本市で町内会を担当している市民生活課長であり、近藤会長の人となり、行政に対する協力的な姿勢などよくわかっており二人でこれは近藤会長に頼むしかないと一致しました。

数日後、会議で市役所に近藤会長がきているとの情報を得て、課長と私で直にお願いをしました。その際の会長の顔は、驚き、戸惑いを隠せないように見えたが、「重要なことであり、一人では決められない。理事会に諮らないと・・・」と言われましたが別れ際に、「なんとか良い方向になるようにする」と言ってくださり、なんとかかなるかなと思ったことを覚えています。

翌々日、会長からお電話をいただき、内容は「町内会の理事会に出て、説明してほしい」とのことでした。私と野田課長が出席することにしましたが、私達には心配なことが2点ありました。1点目は他地区より先に分別を実施しなければいけない「モデル地区」の必要性和、なぜ粟田地区なのかということのをうまく説明できるか、2点目は、市内の町内会の中でも最も盛んに行われている粟田地区の「集団資源回収」の品目のうち、「缶・びん」が対象から外れてしまうことを承諾してもらえるかということでした。

そんな気持ちの中、4月29日（土）、理事会に伺って説明をさせていただきました。どんな質問やら文句がでるか不安でしたが、2、3の質問があった後、ある役員の人から「市内で1地区だけモデル地区として選ばれることは、大変名誉なことである。」との言葉をいただき、会長からも「他より先にやれば、早く分別に慣れる。皆さん受けましょう。」と仰っていただいたときはうれしいというより、ほっとしたのが正直な気持ちでした。それよりもっと私達を驚かせたのは、理事会での説明を終えた私達に、激励の花束をいただいたことでした。考えもつかなかったことであり、驚きもしましたが大変感激し、決意を新たにいたし

ました。

その後、堀委員長を中心とした「粟田美化推進委員会」をつくっていただき、10月1日、「モデル地区」分別収集実施に向けて、環境指導課と粟田町内会の二人三脚が始まりました。

それからは、書ききれないくらい色々なことがありましたが、「粟田美化推進委員会」はもちろん、集団資源回収を実施している「緑会」「粟田小PTA」それに婦人部などで何回か説明をさせていただき、役員を始めとして多くの方々のご協力を得てモデル地区収集の実施にこぎつけることができたのです。

粟田町内会の皆様、本当にありがとうございました。

粟田の4分別モデル事業の思い出

横須賀市環境指導課 佐藤 洋 二

粟田地区におかれましては、4月から開始した全市一斉の4分別収集に先駆けて昨年の10月からモデル事業として、全市一番に4分別収集を実施していただきました。

モデル事業実施前にも何度かごみ集積所について近藤会長からご相談をお受けいただきましたが粟田町内会のごみ及び集団資源回収に対する取り組みを拝見させていただき、粟田地区ならモデル事業を円滑に実施できるものと確信しておりました。

私も、4分別モデル事業の実施にあたり事前の説明で5回、モデル事業実施後に4分別説明などで5回、早朝の排出状況調査で15回ほど粟田を訪問させていただきました。

1回目の4分別説明会は、町内会館2階で行いましたが、床が抜ける恐れがあるほど多くの方々にお集まりいただき、1階に会場を移して実施したことが思い出されます。

実際に4分別を実施後には、パンフレット・カレンダーを見ただけでは細かな分別で分からないことも多く、実際に品物をお持ちいただくなど熱気のある説明会でした。

11月から、排出曜日の間違っものや、分別の間違っているものについてシールを貼って排出指導を行いました。一時的にシールを貼られて残されたごみが集積所に残りましたが、粟田町内会の全面的な協力により、冬の、身も凍える早朝から、町内会役員・美化委員・ボランティアの方々など町内が一丸となって、集積所において分別の指導をしていただいたおかげで飛躍的に分別が改善されました。真冬にもかかわらず町内会の凄い熱気を感じました。

粟田地区で4分別のモデル事業を実施していただいたおかげで、4分別の徹底はご町内の協力なしには出来ないこと、町内会の取り組みにより改善できることなど多くのことを学ぶことができました。4分別モデル事業に対するご協力ほんとうにありがとうございました。

粟田ゴミ奮闘記

1-37-11 沼里昌子

平成12年10月、粟田ゴミ戦争勃発。横須賀市は容器包装リサイクル法の施行にあたり、全市がゴミの4分別を始める前の実験地区として、我が町粟田を選抜した。

住民への分別法周知対策としては、次のようなものがあった。

- ① パンフレット（各家庭へ配布）
- ② ビデオテープ（各家庭へ回覧）
- ③ 説明会（一般世帯に4回、役員に3回）

一ヶ月の「ならし期間」を経て、11月から本格的に未分別や誤分別のゴミ、袋を間違えたゴミは残されることになった。案じていた通り、各ゴミの集積所は残されたゴミの山。

町内会役員の中から組織された美化委員、各理事、ボランティアが、残留ゴミの多い集積所に立って、「分別間違い」「曜日間違い」「汚れた容器」などについて、説明やお願いの大奮闘。特に12月～1月という厳寒の早朝、鼻水をティッシュで押えながらの涙ぐましい呼びかけに、「ご苦労さま。こうして立っていてくれると、分別の分からない点が聞けて助かる。」という感謝やねぎらいの言葉がある反面、不満を持たれる方々もいて、市への苦情や怒りの電話、町内会長への抗議の電話、住民同志のトラブルなど大混乱。1,500世帯への徹底の難しさを痛感。

しかし1年程たった現在、ゴミの残量は嬉しいことにかなり減ってきている。だがまだ実際にはボランティアが若干の「ダメゴミ」を、何とか回収してくれるゴミに“ご改良？”して下さっていることも事実だ。かれこれ1年も集積所に出勤していると、この「ダメゴミ」を出す人の色々なパターンが見えてくる。

- ①『わかっちゃいるけど、やめられない型』・・・これが一番数が多く、自分の家にゴミが無くなれば幸せだという方。集積所近辺の方々の幸せも考えて、
- ②『分別など全く関心が無い宇宙人型』・・・正しい分別をお願いしても、次はまた同様なゴミを出される方。言葉もすれ違ってしまうのでお手上げ、
- ③『ゴミ行政に高邁なご意見や疑問をお持ちで、現状には協力出来ません型』・・・ご意見は国や市へ。とりあえず今の分別覚えて、お願い、
- ④『行きずりポイ型』・・・ゴミの持ち帰りは今や常識。粟田の町には捨てて行かないで、もちろん粟田の住民には、他の町内へ捨てる方はいませんよね？
- ⑤『うっかり型』『思い込み型』・・・人間誰にも「うっかり」はあるもの。仕方ありません。「思い込み」はなかなか強固で、気付くまで時間がかかります。

このようなゴミの現状を少しでも改善する方法として、色々な声が上がっている。

- ①ゴミの集積所の数を増やす。・・・現在粟田には22ヶ所の集積所しかなく、約70世帯に一ヶ所の割合。市によると20～30世帯に一ヶ所程度が適当とのこと。粟田もこの割合で増やしたいところだが、「増やすの賛成。でも我が家の近くは反対」では実現出来ない。その他、順番制で集積所を移動させるなどの意見もある。他の町内などの例を参考にする、少ない軒数になれば確実に状態は良くなるようだ。
- ②ゴミ袋に名前か住所を書く・・・抵抗のある人もいらっしゃるようだが、実際に実行している町内会もある。でもしなくて済むようになればベスト。

ゴミ分別が始まって1年が経過。肝要なのは資源とゴミの区別。現在資源回収が行われているのは、新聞紙、雑誌、ダンボール、牛乳パック、その他の紙（紙の容器包装など）と金属、古着の7種類に、水曜日の缶、ビン、ペットボトル、木曜日の容器包装プラスチックの計11種類が資源物としてリサイクルされている。従ってこれらの物は汚れを落として出す必要がある。月曜日の不燃物、火・金曜日の燃せるゴミだけが本当のゴミ。

又ゴミを分別する側の我々としては、メーカー側に製品の材質の明記、異なった材質を組合わせたものは、分離しやすい工夫をお願いしたい。食品などを中心に明記されているものもかなり増えてきているが、「一体この材質は何なのか？」と首を傾げてしまうものもある。市の方では、「分離困難なものは、そのまま」ということだが、ちょっと分けて出そうとすると、台所用品にペンチやトンカチを加え、ついでに腕力も鍛えなければならない。

各都市によって違うゴミ処理法。日本中がまだまだ混乱しているゴミ行政。資源回収と言ってもその回収率、再生法、利用度など課題は山積みである。

我が粟田町内会も「美化委員会」から今年は「ゴミ^{ずい}0委員会」と名称を改め、昨年の反省の上に立って活動を始めている。健闘を期待します。

20世紀の負の遺産、ゴミ問題に直面した1年だったが、とりあえず私達は、集積所に残されないゴミを出しましょう。すさまじい悪臭。喜んでいるのは、朝のカラスと夜のゴキブリだけです。最後に、友人田口登志子さんが“カラス”を詠んだ歌を2首紹介します。

- 夕暮を二羽の鴉は寄り添って語らふ如く山へ向へり（30年前の作品）
- 塵処理日鴉数羽は人の米ぬか間ぬいつつ袋を破る（最近の作品）

町 熟 す

2-16-2 中 村 齊

仮に十年一昔をそのまま受け止めるなら、粟田の町が産声をあげたのは、昔むかしのその昔のことになる。昔が3つも付けば道路や区画は変わらなくとも、色々と様変わりするのは当然というものだ。

私達の町が接する県道が整備され上下2車線。くねくね曲がって情緒はあったが、やはり直線の方が見通しは良い。この道路を通るバスも飛躍的に増えて、今では1時間に5本も走る。最寄りの駅名は「野比」から「YRP野比」とハイカラになった。エスカレーターが設置されるなど予想もしなかったことである。

土地を購入する時にもらった「第2期分譲」のパンフレットに、粟田を鳥瞰した^{ちゅうかん}写真が載っている。ひな段は整備されているものの、どこも草に覆われていて、少なくとも私の家の南には一軒の家も建っていなかった。その草原に家が建っていくのは早かった。「きょうは3軒で上棟式だった。」「あの角の敷地で基礎工事が始まる。」食卓を囲む夕食の話題は、町が建築の槌音・工具の音のように賑やかで、「あの家のデザインはおしゃれだ」「あちらは檜づくり」といった具合だった。土地の登記上の名の字山田も消えた。

懐かしい物売りの声。かなりお歳を召されたご婦人が、毎朝「ナットー ナットー」と尻下がり調子で歌うように町内を回っていた。「古新聞、古雑誌」が最近では「オートバイ」やら「ステレオ・テレビ」に変わり、「率良くチリ紙と交換します。」が「無料にて、ムリョウにて」と変わった。変わらないのは「物干し竿、20年前のお値段です」この物売りの声が、日本の生活にまだ親しんでいない外国の方には何やら怖い物と聞こえるらしい。粟田にも外国の方が住むようになった。市内に住んでいるアメリカの人々に、色々な情報を伝え、日本語の指導や日本文化を紹介するボランティアグループ（ポットラック インターナショナル）に粟田の方が参加しているのはうれしい。ご近所に住んでいたアメリカの方が、「焼きいもを買ってみたい」というので、ローマ字でせりふを書いて差し上げたことがある。「焼きイモー」と来たら手を上げて呼び止め、「Ojisan chiisai no hitotu kudasai」大成功だった。母子はニコニコしながら「おいしいです」と頬張っていた。「天気の良い日にベランダに干して、しまう時パンパンと叩くのは何だ。」と問われたので、押し入れから布団を出して敷き「ジャスト トライ ジャパニーズベット」と体験してもらった。妻も英語はチンパンカンパンながら、花火の時には、そのアメリカ人親子とお友達のグラマー美人に浴衣も着せて差し上げたりもした。国際都市横須賀の粟田もインターナショナル。草の根外交の一役を務める。それにしても外国の方のあいさつは、さわやかである。



「私は下手だからと尻込みしないでください。知っている人がいないからおっしゃらないでください」私が昔いた町の同好会へのおさそいの文である。「1,000世帯近い人がこの町と一緒に住んでいるのだから、趣味を通じてお互いに知り合って行きましょう。」これが同好会の始まりである。囲碁や将棋にはかたきという名の友が、チーム作りには、野球ならとりあえず9人集まることが必要である。カラオケには良い聴き手、俳句だってライバルがあって上達する。焼木坂の寿司屋さんへ入ったら、こんな短冊が目に入った。俳句同好会の山崎義雄さんの一句「幸寿司の笑顔がのれん初句会」

商店街のどなたもまずは笑顔で頑張っていらっしゃる。

数年前、市民文化祭に私は粟田の町をこう読んで投句した。「いろどりの溶け込むほどに町熟す」

幸い逸者の青木重行さんが佳作としてとってくださった。選評の中で「町熟す」が良い表現だと褒めていただいた。蛇足ながら「いろどり」とは秋の小鳥達のこと。私は「いろどり」の中に人も木も生き物たちも、程よく溶け合って粟田はいい町に成長したなあと実感を読み込んだつもりだ。私は、町はすべてが程よく調和し、人々が和めることが第一だと考えている。

さてもう一言。町は熟れたら落ちるのではあまりに寂しい。熟れた町という実には、木来への種子が実っているはず。この町を出て国内外で活躍している若者たちが、やがて帰ってくるであろう彼らを、暖かく迎えるふる里をつくっていきたい。山本正治さんの粟田音頭のことばを引かせていただこう。「粟田良い町 憩う町」

ただただ感謝

元粟田小学校校長 天 田 晴 基

私は平成二年四月から六年三月までの四年間、粟田小学校に在職させていただきました。お陰様で学校の二十周年という節日の年を過ごさせていただきました。この四年間は、私の教職歴の中で忘れることのできない日々となりました。色々のことがあり、今もって感無量ですが乗り切ってこれましたのは、地域の皆様様の暖かいご支援の賜でございます。今もそのご縁は近藤会長始め皆様とおつきあいをいただいております。終生変らぬものと大切にしております。さて、昔も今もすぐれた実績を残す学校は開かれた学校です。閉鎖的な学校ではバランスのとれた子供を育てることはできません。粟田小学校も多くの皆様のご協力を得て、この国の次代を担う子供を育ててほしいと願っています。教育の在りようを根底から問い直すねばならない時が到来しているのです。私も遠くから見守ってまいります。皆様、粟田小学校をそして子供たちをどうぞよろしく願いいたします。退任のうちに近藤会長始め皆様、眼を赤くして見送ってくださり、こらえていた涙があふれてしまいました。いま思っても涙がうかんで参ります。ありがとうございました。

すぎたこと

2-27-4 渡辺良香

3分の1世紀とは、親の役目をはたす期間だと実感した。

1971年（昭和46年）12月、粟田（旧野比山田）に来た当時は、親父はすでに退職していて自分の好きな詩吟・俳句に夢中で、テレビ共同アンテナの設置に積極的に関わっていた。私は神奈川県で子ども専門の病院をつくるというので、胸おどらせて赴任し第百圃地に住んだ。

2人の子どもをつれて四ッ田稲荷周辺を散歩し、その田や池ではザリガニを釣り、カブト虫を捕え、カメも生息していた。家内は町内のフォークダンスの集まりに出て楽しんでた。

30年前といえば、東京多摩ニュータウンで1,200戸の人居が開始され、小柳ルミ子の「わたしの城下町」がはやり、カップヌードルが発売された年である。

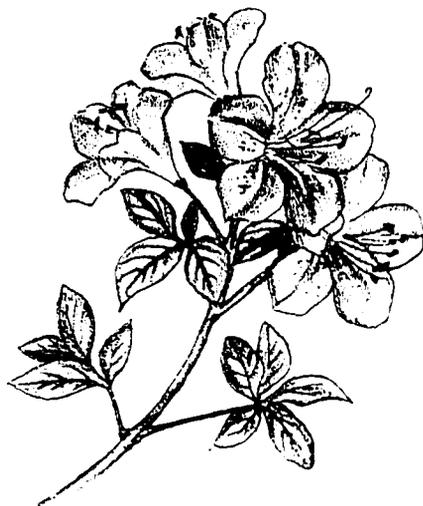
今（2001年）、親父は亡くなったが、子ども達は一人前に育ち、家内は年を忘れて嬉々として踊り続けている。昨年私は定年を迎えた。かつて散策した田・池・丘はすでになく、「四ッ田稲荷」と「もちの木」だけが残ったビル（YRP）が立ったコンクリートの道で、さてこれからどうするか……。

3分の1世紀とはこんな時間の流れであった。

粟田道

「く」の字に咲くやつつじ花

（良香）



近 隣 の 史 跡

1-9-6 山 本 正 治

①御霊神社

高い石段は江戸時代のもの。御霊神社には祖先の霊を祭ったものと鎌倉権五郎景政を祭ったものと二種類あるが、この神社は后者で佐原十郎義連が開基したものとされている。

②常勝寺

金谷山大明寺の末寺、日蓮宗宝泉山常勝寺と号す。三浦半島32か寺の中で5つに数えられる寺。

③聖徳院太子堂

日蓮宗本覚寺末寺。もとは久里浜の宗円寺の末寺で、浄土宗であったが日蓮宗に改宗、聖徳太子を本尊としている。

④正覚寺

小谷山と号し、日蓮宗。常勝寺の隠居寺。加藤清正公を祀っている。須弥壇は江戸時代宝永年間のもの。

⑤佐原城址

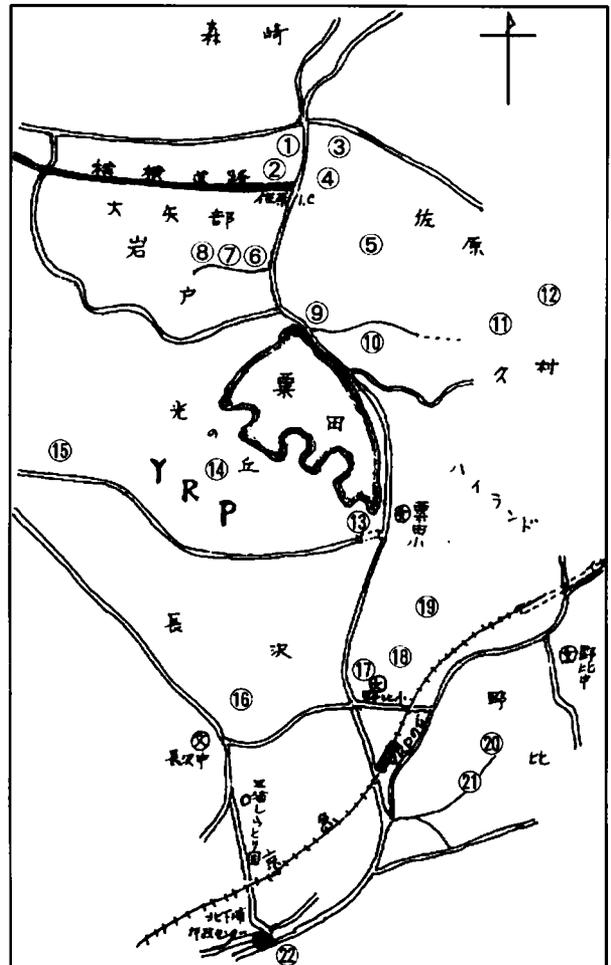
海拔20m余、昔は台畑と呼ばれていた所で、内川の入江をはさんで怒田城や周辺一帯がパノラマのように見渡せる。ここに三浦大介は木子十郎義連を置き守らせた。

⑥巴御前の墓

三浦半島で産出する砂岩で饅頭型のものを重ねているが、かなり崩れている。源義仲が最期を遂げるまで行動を共にした巴御前が、和田義盛の側室になった話はあるが、佐原十郎義連とどう結びつけるか推測を拡げるのみである。

⑦熊野神社

熊野信仰がこんな山奥にまでと考えられるが、鎌倉時代は岩戸のすぐ近くまで舟運があったという事、又漁労も



行われていた事も当然であったと考えられる。現社殿は内川の水神宮の旧社殿であるとか。

⑧満願寺

佐原十郎義連の発願により建てられた寺。大矢部の満昌寺の末寺の臨濟禪寺。かつては七堂伽藍の整った大寺であったという。裏の観音堂（現在は庫裡の右手の収蔵庫）に残された観音菩薩は十郎義連の等身仏とか。平家討伐のため西に向かう義連が戦勝祈願のため発願し、それが満たされたために満願寺と号したとか。観音菩薩と地藏菩薩は国指定の文化財、不動明王と毘沙門天は市指定の文化財となっている。句碑“まずたのむ椎の木もあり夏木立”は幕末の浦賀奉行与力、中島三郎助の書で芭蕉の句。観音堂わきの五輪塔は佐原十郎義連の墓。

⑨道祖神庚申塔群

道祖神庚申塔とともに八基。もと粟田道脇にあったものを県道改修の折ここに合設した。古くからの庚申講、庚申侍、三十三夜講など土俗信仰の名残である。

⑩念徳寺址

山ぐみの木が一本あり、その下側に墓石が一基建っている。この念徳寺は岩戸にある満願寺の末寺と言われ、禅誉上人の隠居寺であった。

⑪等覚寺

栄久山等覚寺、日蓮宗、甲州身延山久遠寺末。観音堂には歓喜天を腹籠にした厨子入千手観音と手足の無い傷んだ仁王像がある。これは最も古い仏像（平安期）で、市の文化財となっている。

⑫御滝神社

祭神は御滝五郎盛定・水速男命。祭神の一つは湧水を滝として祀ったもの。もう一つは民部大輔藤原盛重の子、御滝五郎盛定を祀ったものとの二つの説がある。

⑬かろうと山古墳

海拔95m、一面に篠竹と雑木で覆われた墳丘で、水磨きの切石の組み合わせの石室である。側壁は大小12枚の切石で、南北230cm、東西77cm、深さ80cmに組み合わされている。石室内から発見された、鉄片、金銅片等は市の博物館に展示されている。古墳は奈良時代中期か後期のものと推定され、いずれ古墳の主は三浦半島有数の豪族であったに違いない。今は埋めもどされている。

⑭⑮通信研究所（通研）とYRP（横須賀リサーチパーク）

平成9年10月1日にオープン、電波、情報通信技術の研究開発の拠点。町名は“光の丘”奥の通研はすでに数年前から活動している。

⑯天照大神社

祭神は^{おひるめじちのみこと}大日靈貴命（天照大神）。伊勢皇太神宮の祭神で350年程前に創建された。長沢、梅田、宮ヶ谷各地区にあった浅間神社、若宮神社、熊野神社、春日神社の祭神が合祀されている。

⑰称名寺

醉蓮山称名寺、三浦三十三観音十一番礼所。観音堂は明治時代の建立、“腹籠り観音”が安置されている。古くは真言宗大塔院と称し、観音堂と共に千駄ヶ崎にあったが、貞永年間（1232～1233）に時の僧了法が親鸞に帰依して浄土真宗（西本願寺派）に改宗し寺号も称名寺と改められた。

⑱最蔵寺

光照山最蔵寺、浄土真宗、開基開山は最善坊徳林上人、貞応元年（1222）の創建、当時は最善坊と称し、天台宗の寺で野比地区最古の寺院であった。正応元年（1288）浄土真宗に改宗された。

⑲最宝寺

五明山最宝寺、浄土真宗。源頼朝は自分の従兄に当る明光上人をこの寺の第一世の住持とした。明光は後に親鸞上人に帰依し、浄土真宗に改めた。九世明心法師の時、鎌倉から野比に移って来た。薬師如来の像は県の重要文化財に指定されている。

⑳最光寺

法龍山宝積院。浄土真宗大谷派。開基は行基と伝えられている。始め天台宗であったが、後僧円光が親鸞上人の弟子となり、浄土真宗に改宗し寺を鎌倉松葉ヶ谷に移したが、兵火に遭い衣笠村に移る。後、僧了誓の時この地に來住した。

㉑白髭神社

祭神の猿田彦命は日本の草創の頃、天孫降臨の際に瓊々杵命を先導したと伝えられる。我が国最古の山緒ある近江の白髭神社の祭神を勧請し、波荒い千駄ヶ崎の海の安全と人々の守護安泰を祈念する社とすると共に当地の鎮守として祀られた。この地区にも浦賀と同様に「虎踊り」が伝えられている。また社殿背後の富塚山とみやまの南麓社叢林は県の天然記念物に指定されている。

㉒若山牧水歌碑

大正4年3月から1年9ヶ月あまりこの地に住み、夫人の病後の静養に当った。その間牧水は多くの歌を残している。牧水夫妻を偲びここに記念の歌碑を建てた。

（海に面して）“白鳥は哀しからずや空の青海のあおにも染まずただよふ”（牧水）

（裏面に）“うちけぶり鋸山も浮び米と今日のみちしほふくらみよする”（喜志子夫人）

（長岡半太郎記念館の庭に）

“海越えて鋸山はかすめども此処の長浜浪立ちやまず”（牧水）



史 跡 巡 り

1-35-1 宇津見 浩一



永い会社員生活に別れを告げ、この町に腰をおろして7年になります。当初宮仕えから解放されたことで、何んと自由気儘な生活は良いものと思ひ、気楽な毎日を送って居りましたが、当然の事乍らその様な生活にも徐々に嫌気が出て参りました。加えて全く体を動かしていないと身体の調子が悪く、かと云って只何んの目的もなしに歩き廻っているだけでは長続きする筈がありません。その様な時に町内の「史跡巡り」の会があるのを「粟田だより」で見付け、参加することと致しました。私が参加した最初は確か葉山町のしおさい

公園であったと記憶して居ります。そもそも歴史とは多少の興味はありましたが、それ程深い造詣があるわけではなく、ただ歩いていても見過ごしてしまう場合だらけでしたが、案内者のわかり易い説明を聞きながらの散策はまことに楽しいものがあります。加えて野外で食べる弁当の美味しいことこの上もありません。これまでに何か所位まわったでしょうか。一寸数えられませんが、横須賀市内は勿論、横浜から三浦、鎌倉、葉山辺まで、神奈川県内をずいぶん歩きまわって居ります。その都度、案内者は下調べをしっかりとされて居り、我々の知識を増やして呉れて居ります。史跡めぐりをすると云うことは何と楽しいことであるかを再認識させられます。勿論この近辺だけでなく、全国には沢山の史跡がありますが、当地の特に鎌倉幕府創設時の三浦軍団の史跡等を含め、更にもっと古い遺跡等も見ることが出来ます。更に新しいところとしては、菖蒲園、横浜みなと未来地区、湘南国際村等にも足を延ばし、一日を楽しませて貰って居ります。こと私にしましては、あまり熱心な参加者ではなく、何か事があると欠席させていただいて居りますが、それでも出席致しますと、それなりの収穫があるものです。次の機会にも又出席をと云う気になります。メンバーの中には写真に堪能な方も居られ、毎回全員揃って撮っていただいで居ります。誠に良い記念になり、アルバムに大事に保存して居ります。以上思いつくまま書きましたが、是非皆様にもこの「史跡めぐり」の会に参加されることをお勧め致します。

日本一のマンモス校だった粟田小学校の思い出

2-14-1 稲 永 純 子

粟田の町の子ども達に通う粟田小学校は、1973年4月に開校し、児童数は733名でした。そしてわずか2年間で児童数は2倍以上になり、開校3年目の1975年4月には1,524名になったのです。こんなに児童数が急増した学校は、日本でも、いや世界でも他に例をみないのではないのでしょうか。1975年4月に18名もの職員が着任し、私もその中の1人でした。その後10年間、1985年の3月まで、私は粟田小学校に勤務いたしました。

粟田小学校は、粟田やハイランドの学区が住宅地として開けていくに従って、児童数がどんどん増え続け、プレハブ校舎7教室も建てられ、さらに4階建の校舎ができました。それでも足りず、以前のプレハブを撤去し、校庭側に又8つのプレハブ教室ができました。1978年には児童数が2,190人になり、日本一のマンモス校としてNHKのテレビの取材を受け、全国に放映されました。そしてついにパンク状態になり、1979年に神明小学校が開校し、粟田小学校から683名の児童と校長先生を含む23名の職員が移っていきました。学級数も51学級から35学級になりましたが、それでも児童数1,535名の大きな学校でした。しかし、その後少しずつ児童数が減少しはじめ、私が10年目の1984年には28学級1,127名となりました。その後はどんどん児童数が減少し、今度は教室が余り空教室をデイサービス等に利用される学校となり、再びテレビで放映されました。2001年度の現在、粟田小学校は神明小学校より小さくなり、11学級318名で、あのマンモス校時代がうそのような小さな学校になったのです。

私が着任した時は、職員室には机がありませんでした。食堂のテーブルのような感じで職員が座っていました。体育館もなく、とび箱やマットも校庭に出して体育をしていました。プールもなく、水着の上にタオルのマントをはおった子ども達をぞろぞろとハイランドプールまで連れて行きました。又、校庭側のプレハブ校舎で過ごした時は、毎日床は砂だらけでお掃除が大変でした。夏は暑くて暑くて我慢のできなくなった男の先生が、ホースで屋根に水をかけたこともありました。テレビでマンモス校として放映された年は、全校朝会でも横に全学年が並べず、低学年が前、高学年が後ろに並んでいました。全校で運動会もできず、学年運動会を行いました。新しい職員室には70人位の職員がいて、朝の打ち合わせもマイクを使っていました。養護の先生も2人いました。新学期には、いつも1クラス分位の長さで転入生の列ができていました。集団下校訓練の時などは、各班毎に旗をかかげて行列を作って各公園まで子ども達を連れていき、おうちの方に引き渡したりしました。とにかく、何をするのも



大勢でした。でも、運動会のダンスや騎馬戦などは、大勢いることによって迫力があり、見事なものでした。

粟田の町が30年の今年、私が受け持った卒業生もちょうど30才を迎えました。この学年は、クラスは変わりましたが、4年から6年まで担任をしました。運動会でのダンス「みかぐら」、陸上記録会での活躍、クラスで演奏した「大脱走マーチ」、日光修学旅行やボール大会等、この6年生との思い出は、私の粟田小学校時代の中で1番輝いています。つい最近この中の数人とお話をしましたが、今では立派な社会人となっており、とてもうれしく思いました。

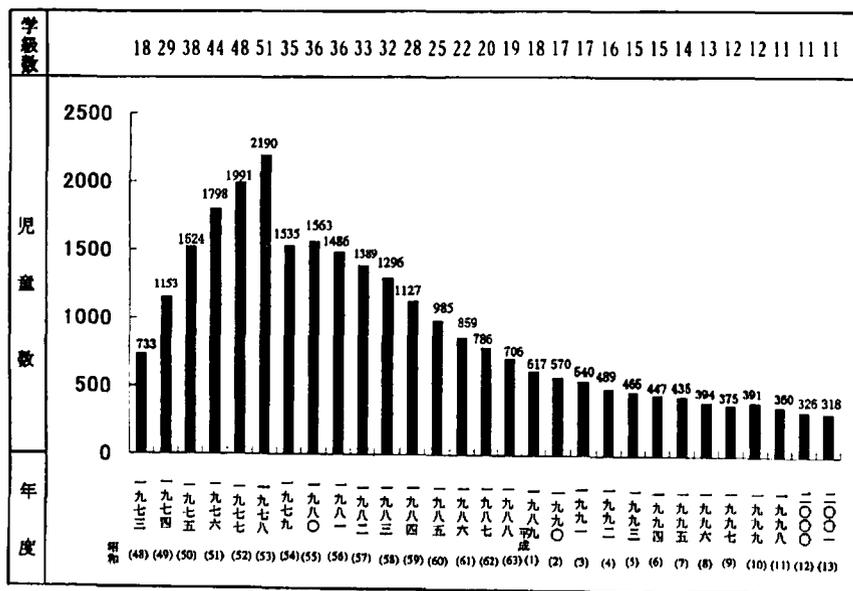
私が粟田小学校で最後に受け持ったのは、可愛い1年生でした。この年に横須賀市が「21世紀へのわたしの伝言」を募集し、クラスで応募しました。それが今年、21世紀になって私の手元に戻ってきました。それにはおうちの方のメッセージもあったので、皆さんに届けて回りました。数人は転居してお返しできませんでしたが、17年振り2度目の家庭訪問となりました。1年生だった教え子は、23才の青年となっていました。何人かのおうちの方ともお会いしましたが、懐かしく思いました。

私は粟田に住みながら10年間も粟田小学校に勤務いたしました。教え子は延べ334人になりました。素晴らしい子ども達でした。保護者の皆様や地域の方々には大変お世話になりました。長い間、気持ちよく勤めさせて頂いたことに感謝いたします。そして今もなお声をかけていただいたり、お便りをいただいたりしていることを幸せに思います。

今年、私は町内会の理事になりましたが、町内会長さんをはじめ多くの方々が粟田の町のために努力していることを知りました。あのマンモス校だった粟田小学校の卒業生の中にはこの地を離れてしまった人もいられるでしょうが、粟田に残っている人も多数いると思います。ゆくゆくは、その人達がこの粟田の町を支えていってくれることでしょう。粟田の町が、いつまでも平和な住みよい町であるようにと、この町の一員として心より願っております。

児童数の変遷

「参考文献」
粟田小学校創立
20周年記念誌より



粟田町内会の発足と同じ年に産声をあげ、粟田で育った30才の青年3人に、思い出をつづっていただきました。

粟田に住んで

1-38-2 山崎 由紀子

粟田に住んで24年……。5歳の時に引っ越してきてから少しずつ少しずつ変わってきました。空地がテニスコートになり、道路も舗装され直し、テニスコートが店に変わり……。周辺も高速が佐原まできたりYRPができたりに引っ越してきた時とはかなり変わってきました。



それでも粟田を囲む山々はまだ失われずにいるのは少し嬉しい感じがします。中学校からの帰り道に粟田の山に沈む夕日を見て、その空の色と山の影が綺麗でこの情景がいつまでも残っていて欲しいと思っていました。当り前のように自然が壊されたり、または手が入られ人間にとって都合のいいものに変えられたりするなか、少しでもそのまま変わらずにそこにあるこの自然は、粟田という町になくってはならないものではないかと思います。

粟田池でザリガニ釣り

2-37-7 北村 和広



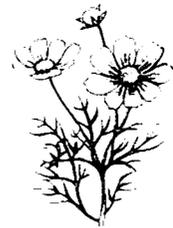
自分がこの町で暮らしてきて一番記憶に残っているのは、小学生の頃のことです。自分が小学生の頃、粟田小学校は、6年間あっても同級生全員の名前は覚えられないくらい沢山子どもがいました。それでも、遊ぶ場所にはとくに困りませんでした。粟田はそんなに大きな町ではないけど、いくつもある児童公園や小学校の校庭、空き地、そして裏山で遊ぶことができたからだと思います。たとえば、裏山にある「あわた池」に行くと、エサや糸が池のところに置きっぱなしになっているので、後は近くにある竹や木の枝を使って竿にすればすぐにザリガニ釣りができました。それにここは、車の通る量も比較的少なかったと思います。最近では車が前に比べ増えたようですが、それでも静かな所だと思います。

粟田もいろいろと変わっていくと思いますが、これからもこの町をしっかりと見ながらいっしょに年をとっていきたいと思います。

粟田のこれから

2-31-16 岩瀬 勇 希

野比と長沢の一部が「粟田」に町名変更され、粟田が町として正式に誕生したのは昭和50年（1975）3月1日のことで、ここに人が住みはじめてからは30年ですが、町制としては、平成14年2月末で27年ということになります。



私は、生まれてから30年を「粟田」で過ごしてきました。特に、昭和50年前後は粟田に移り住んでくる人が最も多い時期でした。当時町内には私と同年代の子供たちが多くいて、今と違い空地のほうが家が建っているところよりまだ多く、遊び場にはうってつけでした。今は家が建っている空地に枯れ草で秘密基地をつくり、野比・長沢に抜ける山を駆けめぐり、ザリガニを釣ったり、蛙の卵をとったりして、実はそれらを生で食べたりしたことを今では恐ろしくも懐かしく思い出します。これに共感できる人はそうはいないでしょうけれども、とにかく、そういう私達の親も若い世代が中心で、そういう意味でも、粟田は若い町でした。

最近、町内であまり子供を見かけなくなりました。30年はだいたい一世代が経過する期間で、粟田で生まれ育った多くの子供たちが親になり、彼らの子供が遊びはじめるころのはずです。粟田に住み続ける、あるいは戻ってくる当時の子供の世代が少ないのでしょうか。気掛かりです。

私は、現在、横須賀市内のあちこちの様々な人々と接する機会がありますが、横須賀には戦前からの歴史を持つ古い町が多くあり、小さな市内といえども、町々によって独特の雰囲気と文化があります。粟田はまだ30年ですが、いつまでも新興住宅地というのであれば、それは違うでしょうし、いけません。



そんなことを考えていたら、何か、活気のあることをしたいという衝動に駆られました。取り敢えず、粟田小学校の卒業生を集めての記念行事とか、個人的には同窓会でしょうか。

そういえば、一緒に遊んだ彼らは今どこでどうしているのかなあ。久しぶりに古い友人に会いたくなりました。

納涼大会への参加、同好会やクラブへの練習の場の提供など、日頃粟田町内会にご協力いただいている三浦藤沢信用金庫粟田支店の支店長に寄稿していただきました。

粟田町の一角で

三浦藤沢信用金庫 前粟田支店長 山 本 ^{カオル} 芳

三浦藤沢信用金庫粟田支店が、皆様お住いの粟田町の一角にて産声をあげたのは、今から26年前の昭和50年9月16日の事でした。以来、粟田町内会の皆様を始めとした多くのお客様のご支援に支えられ今日に至っております事を感謝致しますと共に厚くお礼申し上げます。

開店当初は現在の様に住宅は整備されておらず、支店の周囲には数える程の家しかなく、私共本部の役員他、開店に携わった関係者からも、今日の粟田支店の姿は想像も出来なかったとの話を聞いております。これも一重に、粟田町内会の皆様が、私共三浦藤沢信用金庫粟田支店を、町内の一員として暖かく迎え育てて下さった賜物であり、重ねてお礼申し上げます。

私が、粟田支店の支店長として着任致しましたのは、平成11年9月1日であり、丁度2年が経過致しました。その間、町内会の皆様には、大変お世話になっております事は素より、納涼大会、敬老会、運動会等々、数多くの行事にお招き頂き、皆様と共に楽しい一時を過ごさせて頂いた事は大切な思い出の一つになると思います。

色々な行事を通じ、粟田町内会の多くの方々とお会いする機会を頂いておりますが、常に感じておりますのは、約1,500世帯、4,200人の人口と言う大きな町内ではありますが、大変良くまとまっていられると言う事です。町内の隅々迄、町の方針と申しますか、私想うに、粟田カラーが浸透しているな、と感じられます。これも粟田町創設当時の町内会の役員様から始まり、現在の近藤会長を始めとした役員の方々の、ご努力とご苦勞の表れであり深く敬意を表します。又、何よりも、町内会の会員の皆様の心が一つにならない事には、この様な素晴らしい町内には出来上がらなかったものと思います。

最後に、粟田町内会創立30周年を、心よりお祝いすると共に、益々のご発展をお祈り致します。





俳句

— 自選四句 —



赤羽秋刀子

裏山は狸住む山笑ひ初む
涅槃西風目を閉ちて歯を削らるる
首振ってタイを引抜く暑さかな
八十年現か夢か牡丹散る

石川智恵美

古き佳き刻蘇る赤のまま
南瓜煮て三代揃ふ夕餉かな
五月雨やガラスに描くよろけ縞
かぶと虫少年の口の通過点

榎本 信子

木洩れ日に匂ふむらさき岩煙草
濯ぎもの反る迄乾く大暑かな
炎昼に間延びして鳴る鳩時計
短夜や疲れと竹のコキコキと

小野川 明 (昇龍)

今日までは日記続きぬ雛祭
逆さまに切手貼られし文化の日
茶羽織の仕付糸歯で切り妻笑ふ
水温む紙漉きは水練り返す

近藤 穆

花筏棹さすように進み来る
透き通る嬰の瞳も秋思かな
冬うらら片言なれど反抗期
台風の進路に母の一人住む

佐藤 辰蔵

哀愁を奏でる胡弓風の盆
帰省客尽きぬ話に灯は消えず
怒り肩とれし案山子は役を終え
父の日や妻の支えし半世紀

西川 雲子

工事場の鉄の匂ひの汗を拭く
露座仏の福耳洗ふ五月雨
廃山の名残りの駅や帰る雁
暑き日に母に似てきし白髪梳く

馬場エイ子

受験子にダイヤ乱るる雪の朝
病むところ撫でて煙の初詣
小糠雨いまひとたびの濃紫陽花
ギンヤンマ遠き音子らのはしゃぐ声

深沢 達三

夜の秋妻の運びし赤ワイン
朝刊とパンと牛乳小鳥来る
飛びとびの石が大好き石叩き
日曜画家なかなか塗らぬ秋の空

本田 きく

集落を湖に沈めて鳥渡る
内緒事口傘の中に折りたたむ
安達太良の雨むらさきに桐の花
大花火配流の鳥を揺らしけり

山本富美子

春昼の小暗き軒の仰煮屋
ファッションもコーヒも黒夏つばめ
実むらさき山の茂みのピアニシモ
粥を吹く朝のひかりの白障子

山本 正治

五輪塔は源氏の武者か竹落葉
夏帽子毬藻の湖へ飛びゆけり
蒼茫の天に帽脱ぐ冬銀河
富美さんと呼んでみたしよ寒茜

＝ 町の団体紹介 ＝

◎ 粟田老人クラブ（通称粟田緑会）の組織と運営の概要について

- 老人クラブとは、国の定める老人クラブ運営基準による（老人福祉法）団体で、地域社会の理解と協力により、高齢者が高齢者自身の福祉を図るため自主的に組織され運営されている地域団体を言います。尚この団体の目的は①会員の福祉と健康の増進 ②レクリエーション活動 ③地域社会と交流し奉仕活動を行い、明るく住みよい町づくりを目的とした団体です。

町内会の方々には緑会について具体的に説明を致します。

◎ 創立、入会資格、会費、その他

①創立 昭和46年4月7日

②老人会として市より認められる会員数は50名以上と定められており、平成13年9月末現在、141名、男性66名、女性75名です。

③代表者は、6代目会長 ^{***}大懸象治郎 粟田1-31-14 TEL 48-0848

④入会資格 粟田在住の60才以上の希望者（60才未満の方でも準会員として入会可能です）

⑤年会費 ¥1,200（会計年度は4月です。4月以降の入会者は月割計算となります）

◎ 会議、役員、月例会

①会運営の円滑化を図るため、毎年4月総会を開催し、本会の重要事項を審議します。その他必要な事項は役員会に図り（規約外）会長が定めることができます。

②本会の役員は下記の通りです。

会長1名、副会長2名、事務局2～3名、会計1名、会計監査1名、相談役1～2名、連絡員若干名

尚副会長補佐を置くことが出来るように定めております。

③月例会 毎月（1、4月を除く）全員参加として下記の行事を行う。

(1)毎月行うものは月間諸活動の指示連絡、俳句会、誕生祝（誕生月の会員に1,000円の商品券を贈る）、懇親会（食事会）等

(2)月を決めて実施するものは、各種講話、映画会等

◎ 奉仕活動

①地域の清掃 ・焼木坂バス停附近の清掃（バス停清掃割当表により週1回行う）

②公園清掃 ・中央公園、2丁目第3公園、毎週水曜日（雨天の場合翌日）実施

・1丁目第2、第3公園、2丁目第5、第6公園は月1回第4水曜日に行う

③資源回収 ・原則として第3木曜日実施。新聞紙、ダンボール、雑誌、その他の紙、古着

④野比海岸清掃 ・年1回クリーンよこすか活動に協力

⑤町内会諸行事・納涼大会、文化祭、会館清掃等

◎ 教養活動

- ①映画会 ◦年2回位
- ②高齢者教室 ◦行政センターにおいて年間14回位
- ③俳句会 ◦毎月、例会において実施
- ④英会話勉強会 ◦月1回第3火曜日
- ⑤歴史巡り ◦随時参加

◎ スポーツ活動

- ①ゲートボール ◦毎週月～金曜日まで5日間
- ②歩こう会 ◦年2～3回位

◎ レクリエーション活動

- ①旅行 ◦宿泊及び日帰りを含み年4～5日
- ②茶道 ◦煎茶、毎週水曜日午前
- ③囲碁 ◦毎週火曜日午後
- ④日本舞踊 ◦毎週金曜日午後
- ⑤フォークダンス ◦毎週月曜日午前

◎ その他

- ①平成6年 日本老友新聞（全国紙）
 - ②平成7年 神奈川新聞
 - ③平成9年6月 クリーンよこすか市民委員会
 - ④平成10年2月 市制記念日に沢田市長より
- } 資源回収の活躍に対し掲載された。
- } クリーンよこすか運動推進団体として表彰された。

● 粟田子供会 ◦創部 昭和45年4月 ◦代表 酒井順子 粟田2-46-14 49-0468

- 活動場所 粟田小学校体育館・町内会館など行事によって異なる。
- 時間 定例会は毎月第一土曜日 午後1時30分～ 町内会館にて
- 部員 145名 ◦会費 月50円 安全会会費100円（年間）
- 内容 5月 新入生歓迎会 6月 町内会館前花壇の植え替え、防災訓練への参加
7月 納涼大会（出店での物品販売） 8月 ソフトボール大会（粟田ヤングファイターズ出場）
9月 ウォークラリーのお手伝い 10月 健民運動会、敬老祝賀会、文化祭への参加、町内
会館前花壇の植え替え 12月 防災訓練、お楽しみ会 3月 6年生送別会（ボウリング大会）

● 粟田小学区体育振興会 ◦創部 昭和48年4月

- 代表 山田英世 ハイランド2-13-2 48-5280
- 活動場所 主に粟田小学校 ◦常任理事 33名 ◦予算 市及び三町からの助成並びに模擬店の収益金等。

- 内容 地域社会の体育の振興を図ることを目的として、市の小学校学区単位に組織され、市から委嘱された体育指導員が主体となって活動し、特に青少年の心身の健康づくり、明るい家庭と社会づくりに努力している。

粟田小学区体育振興会は、粟田、ハイランド2・3丁目で組織され、粟田小学区住民の健康増進とスポーツの普及を図り、併せて相互の親睦を深めることを目的として、次の事業を行っている。

学区対抗の球技大会への参加をはじめ、当振興会としては、健民運動会、春・秋のウォーキング、同ゴルフ大会、同ボウリング大会、グランドゴルフ大会、卓球大会、バドミントン大会のスポーツ開催のほか、横須賀第一老人ホームフリーマーケットに出店し、収益金を全額その年の話題となった団体等に寄付し、納涼大会の模擬店収益金は自主事業の資金として活用している。

◎ 粟田青少年活動推進の会 ○創立 昭和59年4月

○代表 山田善久 粟田1-39-9 48-1348

○活動場所 町内全区 ○時間 イベントを中心に活動 ○予算 市補助金、町内会補助金、納涼大会出店実習からの収入

- 内容 当会は、地域住民（大人）が青少年の為の各種活動や行事を推進することにより、町内の青少年の健全な育成を支援することを目的に活動しております。支援母体は、町内会をはじめ、青少年活動推進の会の役員・委員・青少年指導員・学校関係の各種委員等により運営され、地域の特性を生かした活動内容や青少年の関心を誘うような内容に気配りし、推進しております。主な年間行事・活動内容は次のようなものです。

①納涼大会における屋台販売実習

綿菓子・ポップコーン・アップルティ・ガラクタ市等の販売実習活動を通して、労働の大変さ・人切さを理解してもらうと同時に、その収入が各種行事に生かされ、役立っていることを実感してもらう。

②ウォークラリー

町内の公園等を利用し、頭・体・勘を働かせるゲーム的な競技を二人一組で行うもので、一緒に遊ぶことの少ない今の子供達には貴重な体験になっているものと確信している。

ウォークラリーの具体的な内容を記述する余裕がないので項目のみを列記する。

人間計量器、文学、得意技、難解ゲーム、紙飛行機制作・飛ばし、バスケット又はフリスビー、デッサン、ゲートゴルフ、リズム、梨の皮むき、算数、人間物差し、運勢等。

③周辺地域との親善バレーボール

④秋の文化祭における学区中学校の吹奏楽部の招聘・鑑賞

⑤春休み時のボウリング大会

以上のように、年間で大体平準化させる形でプログラミングしていますが、少子化傾向

にも関わらず年々参加数が増加傾向にあり、関係一同更に工夫を凝らして一層の参加数増につなげていきたいと張り切っているところです。

◎ 青少年指導員について

町内会長、青少年活動推進の会会長の推薦によって選出させる。

粟田地区より2名、任期は2年間。粟田地区・野比地区・ハイランド地区そして野比中学校とのパイプ役として活動している。活動内容としては

- ① イベントバレーの開催
- ② 地域パトロール（年3回で各地区）
- ③ 黒船祭りでのパトロール
- ④ 地区懇談会への出席
- ⑤ 野比中学校（校長・教頭）、執行部（生徒）との話し合い。

相談してみようかな

ヤングテレホン横須賀

小学生・中学生・高校生のための電話相談

電話・FAX 26-1177 秘密厳守

受付時間 平日 10時～17時

FAX・留守電・EメールはいつでもOK

お休み 土曜・祝日



30周年を記念して町内で活躍中の団体及び同好会の紹介をします

栗田緑会ゲートボール部 ○創部 S55年6月 ○代表 新宮茂 栗田2-7-10 48-5090

○活動場所・曜日・時間 第3公園 月曜～金曜 午前9時～11時30分 ○部員 21名

○会費 年2,000円

○内容 昭和50年頃、行政から高齢者向けのスポーツとして紹介があり競技の基本から始めました。当初は、男性中心でしたが女性も容易に出来る事が分かり、親睦と健康を兼ねたふれあいの場として、多くの人達を誘って楽しもうとPRしたところ、北下浦地区全体に普及し、今では10団体のクラブがあり競技大会など催しています。部員は21名ですが、創部以来の方が7名おられます。最高齢90才の方は今でも現役でプレーをされ、横須賀ゲートボール連盟から「健康功労賞」を受けるほど元気です。また、公認の審判員資格者は10名で、平均年齢77才ですが、皆さんののはつらつとしたプレーとマナーが他所から評価され各種大会で入賞しています。最近ゲートボールは下火傾向にあると言われ、若い人から敬遠されますが高齢化が進む中で、価値感も多様化し、なかなか共鳴していただけないのが実態です。しかしスポーツに通じる事は団体競技でチームの和と健全な心身の向上、加えて広範囲の人との「コミュニケーション」
です。子供から老人まで男女関係なく競技を楽しむ事が出来、適度な運動と頭の体操は長寿につながる健康スポーツと言え奥が深く、向上心が湧きます。栗田緑会ゲートボール部も県大会、日本選手権、世界大会へと目標を大きくもって、日常和気あいあいと頑張っています。



緑会フォークダンス部 ○創部 S62年1月 ○代表 新宮キミ 栗田2-7-10 48-5090

○活動場所・曜日・時間 町内会館 第1・3・4月曜 午前10時～12時 ○部員 21名



○会費 1,000円 ○講師 渡辺ケイ子

○内容 緑会フォークダンス部は、今は故人となられましたが五十嵐先生の御指導ではじめたのが、14年前でした。

平成5年からは渡辺先生に代わり、すでに8年を経過しております。平均年齢も73才のシルバーですが踊りのステップも軽く若さイッパイで頑張っています。毎年恒例

の北下浦老人親睦演芸会には、必ず演題2曲をフォークダンスで出演し好評を拍しております。また、緑会新年会では発表を兼ねた新曲を披露します。

そのほか、6月は創立記念、12月にクリスマスパーティーなどで部員仲良く手をつなぎ、輪になって踊りを楽しんでおります。

緑会囲碁部 ○創部 S49年4月 ○代表 古城喜一 栗田2-26-1 48-0139

○活動場所・曜日・時間 町内会館 毎週火曜日 12時30分～16時30分 ○部員 6名

○内容 週に一回程度ですが、呆け防止の為にっております。お陰様で、皆さん元気で老いの生きがいで、張り切って、楽しみながら続けております。

緑会茶道部 ○創部 S49年10月 ○代表 成田キヨ 栗田1-7-8 48-1342

○活動場所・曜日・時間 町内会館 月3回水曜日 ○部員 6名 ○会費 100円

○内容 当時お元気であった栗田在住の宮崎波留美先生（東安部流煎茶教授）にお頼みして会員は6名位で始められたようです。当時の会費は500円でしたが、そのうち会員数も11名ほどとなり会費1,000円に値上げし会員の親睦を主に煎茶のお点前、客振り、飲み方等賑やかに練習いたしました。昭和57年の文化祭より町内会館の二階和室に於いてお茶会を催すこととなりそのうち、2回程都合によりお休みしましたが、平成2年先生がお亡くなりになった後も会員一同文化祭の為に協力して平成4年の文化祭まで続けさせていただきました。その後は亡くなる方もあり会員6名の内一人は病氣中でもあり、たまにお茶のお点前を思い出してみる事もありますが、専らボケ防止と親睦が主で、お茶を飲みながらおしゃべりしています。

緑会舞踊部 ○創部 S55年4月 ○代表 住岡和子 栗田2-20-3 48-7621

○活動場所・曜日・時間 町内会館 金曜日 13時～16時 ○部員 7名 ○会費 500円

○内容 1. 納涼大会の盆踊り、7月下旬町内会の盆踊りに参加致します。

盆踊りの練習は、婦人部の御協力で2日間行います。やさしい踊りですので、皆様の御参加をお待ちしています。

2. 健民運動会に参加、お昼休みのアトラクションとして参加致します。

3. 緑会の新年会に出演、日頃のお稽古の成果の発表会です。平成13年に恩師の大懸先生が亡くなられ、悲しく辛い日々でしたが、御指導いただきました澤山の踊りを大切に守り、生徒一同踊りつづけて行きたいと思っております。



外来語勉強会 ○創部 H3年12月 ○代表 大懸象治郎 粟田1-31-14 48-0848

○活動場所・曜日・時間 町内会館 第3水曜日 13時～15時 ○部員 10名

○会費 年1,200円 ○講師 荒川徳数

○内容 最近、新聞、雑誌、テレビあるいは街に掲示されている看板等にカタカナ語が氾濫しておりますが、私達は丁度英語排斥という中で勉強させられ、馴染が浅く非常に苦慮しております。そこでこれを何んとかしなければ、と言うことで創部され現在に至っております。当初は、約15名でしたが、現在は10名程度となっております。月一回の勉強会には、予め個人の質問事項を当日持ち寄って、講師がこれに解説を加え、和気あいあいの中で、黒板に書かれた説明をノートすることによって、頭の体操の一助ともなればと思っております。

私達も時代にとり残されないよう、人生は常に勉強である事を忘れずにいたいものです。テレビをただボーッと見ているだけでなく、分らない事をメモしておき次回に質問しようと思う事が自分自身の一歩前進ではないかと、いつも若くいる皆さんとの交流を深めることを念じております。

粟田公民館史跡めぐり ○創部 S50年4月 ○代表 山本・丹沢・大懸・勝山・駒崎

○活動場所・曜日・時間 三浦、横須賀、葉山、逗子、鎌倉、横浜、東京 毎月一回土曜日 約6時間 ○部員 20～30名（自由参加のため） ○会費 100円（参加費）

○内容 昭和50年、市の教育委員会生涯学習課の委託で粟田学区公民館活動として発足。以来、多角的な活動を続けて来たが、平成12年3月市委託による学区公民館活動は解散したので、粟田は史跡めぐりだけを存続することにした。会員制をとらず、自由参加としている。活動は三浦半島、鎌倉、横浜、東京方面の歴史探訪、資料提供など。

計画立案、下見、案内、資料作成、写真撮影など。

粟田囲碁同好会 ○創部 S50年 ○代表 北沢正年 粟田2-21-6 48-5122

○活動場所・曜日・時間 町内会館 土曜日第1・3 午後1時～5時、第2・4 午後5時～9時 ○部員 20数名 ○会費 年間1,500円 大会費 1,000円 旅行会費 10,000円

○内容 町内の知らない者同志が囲碁を通して親睦と交流を図ることを目的に囲碁を愛する有志により発足した歴史のある同好会であります。

親睦と交流の発足時の目的も達成し一時は60数名の大世帯でありましたが現在は20数名の同好の有志で毎週の例会と年4回の大会を開催しております。

粟田民謡同好会 ○創部 S50年6月 ○代表 松本 禮次 粟田1-33-7 48-7641

○活動場所・曜日・時間 町内会館 毎週火曜日 午後7時～9時 ○部員 3名

- 会費 3,000円 ○講師 小林淡動
- 内容 2・3ヶ月に一曲を仕上げ、過去の唄も交えて稽古をしている。

粟田園芸愛好会 ○創部 S50年6月 ○代表 橋川 直 粟田2-9-13 49-1929

○活動場所・曜日・時間 中央公園、町内会館、第3公園、年間6回の花き展示、即売会

○部員 64名 ○会費 月200円

○内容 昭和50年に粟田盆栽愛好会として発足、その後平成8年に洋蘭愛好者が参加し名称も粟田園芸愛好会に変わりました。年間行事は4月にエビネなどの春の山野草展、6月始めにサツキなどの春の花卉展、6月末にウチョウラン鑑賞会、8月にサギ草展、9月に敬老の日展示会、10月に大文字草展示会、といった具合に年間6回のメイン・イベントが開催されます。

金賞をめざし、各会員は毎日草花の手入れに余念がありません。展示会には町内の皆さんが鑑賞においでになり、即売品を格安でお求めになります。

虫眼鏡でも見えないほどの小さなウチョウランの種子を発芽させ、立派に花を咲かせる特技をもった人もいます。中央公園と第3公園（町内会館前）花壇の柵は腕自慢の会員たちが日曜大工でつくりました。

中央公園の花が一年中きれいなのは、全会員（64名）が一週間交代で毎日水やりを絶やさないおかげです。二人一組が年間を通じたシフト表により、きれいな花を絶やさないので可愛がっています。あなたも参加して花と対話してみませんか。

事務局 長広 48-4944

煎茶 ふよう会（休部） ○創部 S59年4月

○代表 仲野ヤス子 粟田2-37-13 49-3479

○活動場所・曜日・時間 町内会館 月2回火曜日 午前中 ○部員 6名

○会費 1,500円 ○講師 東阿部流師範 松永俊子 角井きくゑ

○内容 お煎茶は、互いに語り楽しみながらお茶を頂くことから始まります。お茶を楽しむのルールが点前です。万代会館から始まり、会員10名賑やかでしたが、家庭の事情もあって6名も危うくなり、現在休部になっております。

粟田書道同好会 ○創部 S52年9月 代表 佐久間陽子（虹竹）野比1-38-2

○活動場所・曜日・時間 町内会館 月3回火曜日 午前10時～ ○部員 15名

○会費 1,500円 ○講師 佐久間虹竹

○内容 粟田書道同好会は昭和52年町内会で催された数回の書道講習会から発展して生まれました。以来、町内の百数十人の方がこの同好会に籍を置きました。

佐久間先生は粟田一丁目に長く住んでいらっしゃいましたが、現在は野比に移られ、お

忙しい中を私達のために教えに来て下さっています。今は転居されましたが、この同好会で書道を学んで、先生と同じ審査員になった人も二人あり、先生のすぐれたご指導の賜だと思います。先生のやさしい御指導のもと、初めて習字をする人、何年も続けている人まで、交わりを共にしながら書道に励んでおります。その成果は町内の文化祭で発表し、皆さんにごらん頂いております。

粟田カラオケ同好会 ○創部 S60年 ○代表 石川恵美子 粟田2-48-5 48-4333
○活動場所・曜日・時間 町内会館 第1・2木曜日 ○部員 6名 ○会費 3,000円
○講師 青木輝男
○内容 老人ホーム 5回慰問（野比老人ホーム、シャロームなど）人数が少なくなった為、慰問などの活動がなかなか出来ません。興味のある方は、お茶飲みがてら気軽に見学して下さい。

粟田俳句会 ○創部 S61年4月 ○代表 山本正治 粟田1-9-6 48-1347
○活動場所・曜日・時間 町内会館 第一土曜日 午前9時～12時 ○部員 11名
○会費 半年1,000円
○内容 ○出句（5句）○清記 ○選句 ○披講 ○合評 ○兼題（次回季題）○吟行

詩吟同好会 ○創部 S61年4月 ○代表 岩淵ミチ子 粟田2-39-2 48-4870
○活動場所・曜日・時間 町内会館 月3回水曜日 午前10時～12時 ○部員 12名
○会費 3,000円 ○講師 青木岳勇
○内容 男性4名女性8名のグループです。私達はいつ迄も元気で楽しく和気あいあいをモットーにしております。日本、中国の漢詩（人生の指針となる詩が沢山あります）和歌、俳句を吟じながら、休憩時間には楽しそうな雑談があちこちから聞こえ、いつの間にか2時間が過ぎてしまいます。大きな声を出す事は健康に良いと聞きます。これからも、出来る限り永く続けてゆきたいと水曜日の来るのを楽しみにしております。尚、会員を募集しております。

希代鶴会（休部） ○創部 H1年4月 ○代表 小原キヨ子 粟田2-42-12 48-8059
○活動場所・曜日・時間 町内会館及び自宅 第2・4日曜日 4時間 ○部員 8名
○会費 1,000円
○内容 主として地域外で神奈川県民謡協会主催による、春、秋大会に出場し発表してまいりました。会員皆さんご自身も年ごとに上達され、立派な資格を得られた方もおられます。私達サークル活動が長く継続したことは、町内会館開放にご理解とご努力されました関係者各位の賜と感謝致しております。

仲良し会 舞踊部 ○創部 H2年5月 ○代表 大野八重子 栗田2-48-1 48-8097

○活動場所・曜日・時間 町内会館 水曜日 午後 ○部員 7名 ○会費 1,500円

○講師 大懸トミ子（但し、平成13年5月より不在）

○内容 藤間流及び花柳流の名取である大懸トミ子先生に恵まれ、平成2年5月、5名で始めました。踊りの“いろは”から教えて頂き、会員は一時13名にもなりましたが年齢には勝てず、病氣や転居等で現在は7名のみで頑張ってきましたが、師匠の思うような踊りは中々できず、随分とお竹折りをかけました。

緑会の新年会や納涼大会の為に毎年6曲の踊りの振り付け・衣装の選定にと、師匠の気苦労も大変なことだったろうと今更ながら反省しておりました。

その大懸先生も春先から体調を崩され5月末天国へと旅立たれてしまいました。悲しみの年の納涼大会は、夜空から私達を見守っていて下さると信じ、師匠の踊ったビデオを見ながら生徒一同一生懸命勉強し頑張ってきました。合掌

栗田ほのほの会（ボランティア・グループ）○創部 H7年11月

○代表 竹内博子 栗田1-14-8 48-3890

○活動場所・曜日・時間 ①手芸とおしゃべりの会 町内会館 第2金曜日 ②栗田デイサービスセンター 栗田小学校内 随時 ○部員 38名

○内容 町内の人達を町内の人達で支えあおうと始めたボランティア・グループです。現在

1) デイ・サービスセンターでのお手伝い

2) 一人暮らしや日中独居の（昼ひとりっきりになる）お年寄りの方達と手芸や工作をしながら、おしゃべりする会（月1回）

3) 社会福祉協議会の「ふれあい弁当」の配達、などをやっています。このところ、御要望は来ていませんが、ちょっとしたお手伝い（一回2時間程度）ゴミ出し、外出介助、草とり、買物などが必要となった時、お声をおかけ下さい。



栗田さくら会（詩吟）○創部 H9年5月 ○代表 栢崎和子 栗田1-14-9 48-5184

○活動場所・曜日・時間 町内会館 月3回水曜日 午後1時～3時 ○部員 8名

○会費 700円 他雑費700円・月謝1,300円 ○講師 栢崎和岳

○内容 お腹から大きな声を出すことで心肺機能を高め健康にも大変良いと言われています。すぐれた詩歌を朗詠できる喜びを仲間と一緒に味わって見ませんか、老若男女どなたでも出来ます。是非一度のぞきにいらして下さい。

ポプリの会 ○創部 H11年6月 ○代表 本間みつ子 栗田2-11-5 48-8773

○活動場所・曜日・時間 町内会館 火曜日 午後1時～4時 ○部員 8名

○内容 始めは三浦藤沢信用金庫で活動しておりましたが、平成11年6月同好会。

以前、あるお宅を訪問した時「近所に友人がおりません……」と寂しそうなつぶやきに、少しでもお役に立てばと、月1回、2、3時間で出来る簡単な手芸作りと考えポプリの会を作りました。今では、ワイワイ、ガヤガヤ楽しい、時間を過ごしております。作品は家族や友人に差し上げて喜ばれています。どなたか500円位で出来る簡単な手芸を教えてください。お待ちしております。

雅の会 (大正琴) ○創部 H12年6月 ○代表 成瀬佐江子 粟田2-19-9 48-5961

○活動場所・曜日・時間 町内会館 第2・3・4月曜日 午後1時30分～3時30分

○部員 8名 ○会費 1,000円 ○講師 工藤香代子

○内容 私達「雅の会」はほのぼの会の会員です。平成12年8月より練習を始めました。目的はデイケアセンターなどの慰問に行く事です。平成13年6月には一週を通して粟田デイケアセンターの誕生日会に行きまして。大変喜ばれましたので、もっとレパートリーを増やして頑張りたいとみんな張り切って練習に励んでおります。

ニコニコクラブ ○創部 H12年10月 ○代表 牧野彩子 粟田1-20-16 49-9016

○活動場所・曜日・時間 町内会館 月2回木曜日 午前10時～11時30分

○部員 親子21組48名 ○会費 200円

○内容 毎月2回、木曜日に親子で参加。体操、工作、紙芝居、絵本、手あそびなど親子で楽しく過ごしながら、友達との関わりを通じて社会生活の基礎を学べればと思います。また、お母様同志も顔見知りになることで、会話をもち少しでも育児の問題解決になればと思います。年に何回かの遠足、文化祭作品作り、クリスマス会も、楽しい行事のひとつです。



粟田ヤングファイターズ ○創部 S49年9月

○代表 石渡信由 粟田2-17-3 48-8205

○活動場所・曜日・時間 粟田小・神明公園 土・日曜日 約3時間 ○部員 20名

○会費 月1,000円

○内容 現在、横須賀児童スポーツ連盟に所属し、ソフトボールのリーグ戦に参加している。第2・4日曜日にリーグ戦が開催され、前期は6勝5敗とやっと勝ち越しました。その他、各種大会に参加しているが、今年は6年生が少なく4年生中心のチームであるので、上位入賞は一回もない。来年、再来年に目標を定め練習しています。また、年々子供の数が減

少し、部員募集もむずかしくなってきた。入部希望の子供がいれば、ぜひ入部して下さい。過去（平成9～11年）には県大会に出場し、準優勝一回、第3位一回、ベスト8二回と好成績を残しています。子供達は先輩に追いつけ追い越せという気持ちで、ガンバッテいます。

粟田柔軟体操同好会 ○創部 S49年 ○代表 宮川久江 粟田1-34-8 48-9435
○活動場所・曜日・時間 町内会館 月4回土曜日 午前10時～11時30分 ○部員 24名
○会費 3ヶ月2,000円 ○講師 2名
○内容 ・ストレッチ ・簡単なゲームなど ・みんな大病もなく元気で、楽しく体操しています。

粟田フォークダンス同好会 ○創部 S51年4月
○代表 渡辺ケイ子 粟田2-27-4 48-6140
○活動場所・曜日・時間 岩戸地域自治活動センター及び町内会館 木曜日 午前9時～11時又は9時30分～12時 ○部員 19名 ○会費 3ヶ月で2,000円
○講師 渡辺ケイ子 山田幸子
○内容 フォークダンスは「いつでも、どこでも、だれでも」が楽しく踊るといのが原点になっていますので、すぐに出来なくても何回も繰り返して続けていく努力があれば、必ず踊れるようになると思います。皆で手をつなぎ大きな輪を作って踊りましょう。いつでも気軽に動きやすい服装、上履をお持ちの上お出かけ下さいませ。会員一同でお待ちしております。

粟田バレーボール ○創部 S52年 ○代表 多田明美 粟田1-28-18 49-8354
○活動場所・曜日・時間 粟田小学校体育館 火・金曜日 午後7時～9時 ○部員 18名
○会費 月1,500円
○内容 粟田小学校区のママさんが集まってバレーボールの大会に向けて、週2回粟田小学校の体育館で練習に励んでいます。地区大会は年に7～8回位ですが、県の大会につながる大会がその内4回あります。近年は市の大会で優勝する事も多くなりました。昨年は、やまゆり大会で地区優勝し県大会に出場しましたが、結果は出ませんでした。目標を少しでも上において皆でチームワークを大事にし、厳しい中にもバレーボールを楽しんでいます。部員募集しています。

粟田卓球同好会 ○創部 S53年 ○代表 佐藤幸子 粟田1-18-18 48-6182
○活動場所・曜日・時間 粟田小学校体育館 日曜日 午後12時～3時 ○部員 25名
○会費 大人5,000円（年） 中・高生200円（月）

- 内容 老若男女入り混じって、心地よい汗をかいています。今年で大会23回を迎えるハイランド2・3丁目と粟田の卓球同好会、そして一般公募をしてシングル、混合ダブルス戦を行っています。卓球の好きな方、いつでもいらして下さい。

粟田ソフトボール同好会 ○創部 S54年7月

- 代表 梶原泉 粟田1-35-18 48-0170
- 活動場所・曜日・時間 粟田小学校他 H曜日 不規則 ○部員 22名
- 会費 年6,000円
- 内容 平成11・12年度ハイリーグ（ハイランド・岩戸地区ほか全12チーム）総当たり制で各8勝3敗。粟田納涼大会の模擬店及び健民運動会の用具係などに協力。

パープルステップ（廃部） ○創部 H元年7月

- 代表 篠崎幸生 粟田2-7-14 48-6951
- 活動場所・曜日・時間 町内会館 水曜日 午後7時～9時 ○部員 11名
- 会費 月1,500円
- 内容 同好会の行事としては、伊東、千葉へ一泊旅行をかねてダンスパーティーを行いました。年末及び年始には懇親を兼ねて忘年会、新年会を開催致しました。入会時、ステップを踏めなかった方も中にはいらっしゃいましたが、今ではどこのパーティーに参加しても、立派に踊れる様になりました。活動範囲は、鴨居のサンライフ、野比小学校、北下浦行政センターのパーティーに参加、皆さん汗びっしょりで楽しく踊っていました。平成13年7月に廃部となりましたが、パーティーの参加は続けたいと思います。

柔軟体操「若葉会」 ○創部 H1年10月

- 代表 浅葉ミズイ 粟田1-27-1 48-0230 青地鏡子 粟田1-22-6 48-3072
- 活動場所・曜日・時間 三浦藤沢信用金庫2階 木曜日 午前10時～11時30分
- 部員 23名 ○会費 2ヶ月に1回2,000円 ○講師 宮西嶺子
- 内容 健康増進の為にストレッチ体操及びリズム体操（目標…1回につき1～2%の体脂肪を減らす）

横須賀粟田ジョギング同好会 ○創部 H5年4月

- 代表 橋本昭平 粟田1-22-1 49-2820
- 活動場所・曜日・時間 町内近辺の公道、市総合グラウンド、各大会会場 火・木・土曜日 午後7時～8時 ○部員 36名 ○会費 年500円
- 内容 横須賀粟田ジョギング同好会は新興団地に産声をあげて、早8年目を迎え年々活発化してまいりました。週3回の練習会も毎回10数名の仲間たちが、恋人に逢いに來るが如

く、自然と集まってきます。記録なんて関係ないんです。走ることの楽しみ、健康の楽しみ（走れることの楽しみ）を味わえばそれでいいのです。

「継続は力なり」をモットーにみんな楽しむ（汗ばむ）憩いの場として、町の活性化のためと、仲間はみんな元気に頑張っています。

ジョギング同好会の記録（優勝）

久里浜連合駅伝大会	小学生の部	5回
	成人女子の部	1回
	成人男子の部	3回
横須賀市子供会駅伝	男子の部	4回
ふるさとマラソン大会	小学生の部	3回



どんぐりクラブ ○創部 H13年

○活動場所・曜日 第4公園 第1・3火曜 第6公園 第2・4火曜

○活動費 市の補助金（公園清掃費）

○内容 子供会の会員減少により、町内の公園（第4・6）清掃のボランティア活動をしている。

その他地域の社会活動

- ・防犯指導員
- ・社会福祉推進員
- ・民生委員
- ・自主防災指導員
- ・横須賀市青少年指導委員連絡協議会
- ・横須賀市青少年相談委員連絡協議会
- ・クリーンよこすか特別委員会
- ・16ミリ試写室南地区
- ・防災行政無線子局監視モニター
- ・粟田地区テレビ共同受信組合

この他 市内の各種のボランティア活動に入って、奉仕活動をされている方々があります。

あかるく
流れにのって

栗田音頭

作詞 山本正治

作曲 小林淡動



ハア ———— のびのオキ 仄ア ヤ ア ア



まみどり に はアアえてエよ ———— ヤアアアみ



あらた に あかぬいえ が お ソレ ここは



あ わアア た アアよ ———— ここは



あ わ た よ あわ た す むうま ち い ———— こ



う ———— まアアア ち ———— サテ ホ ン ニ



ホ ヤアサ ノ ヤレコオノ セ ————

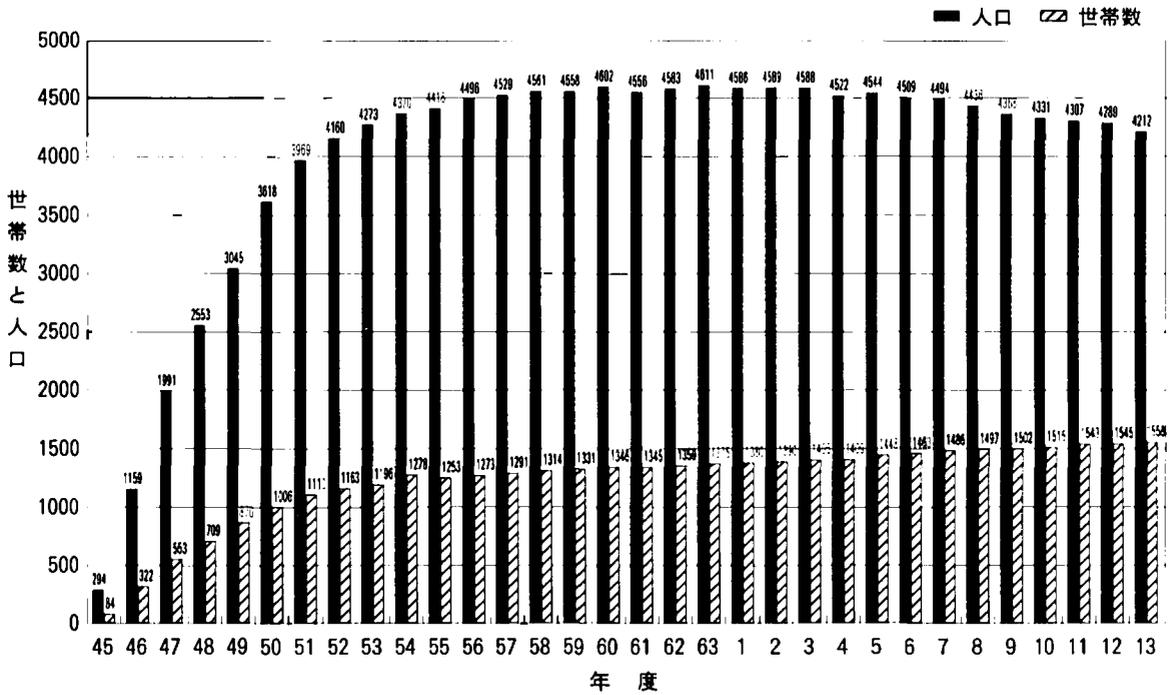
栗田音頭

作詞 山本正治

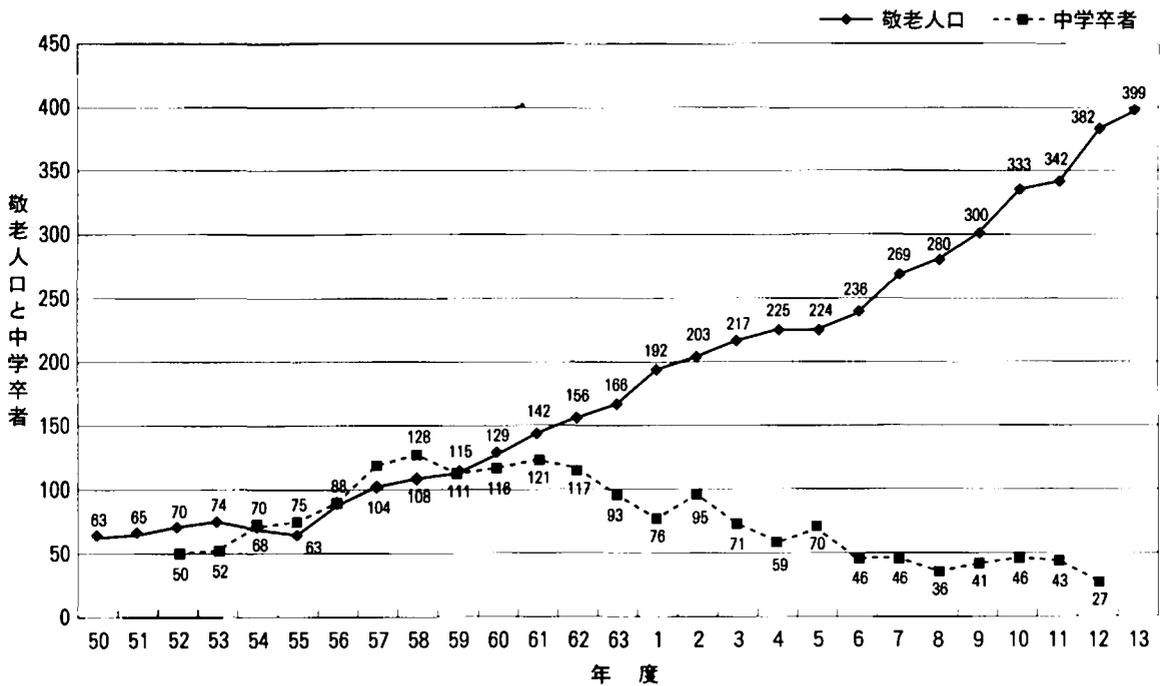
作曲 小林淡動

- | | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|
| <p>六</p> <p>ハア—
遠い故郷を 夜空に偲びヨ—
人の情けを 手と手につなぐ
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 人の和 屋の町
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> | <p>五</p> <p>ハア—
あちらの山で きじばと啼けばヨ—
こちら恋しと すぐ啼きかわす
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 小鳥の 唄う町
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> | <p>四</p> <p>ハア—
老いも若きも 輪に輪を重ねヨ—
踊る手拍子 踏む足拍子
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 人の輪 踊りの輪
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> | <p>三</p> <p>ハア—
みんなそろうた あなたとわたしヨ—
移り住んだら 都も同じ
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 育ちの 君と僕
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> | <p>二</p> <p>ハア—
花は五色に 色かえながらヨ—
うつき花咲く 丘めぐらせて
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 明るい 花の町
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> | <p>一</p> <p>ハア—
野比の北山 緑に映えてヨ—
家並新たに 明るい笑顔
ソレ、ここは栗田よ
ここは栗田よ
栗田 住む町 憩う町
(サテ、ホンニホヤサノヤレコノセ)</p> |
|---|---|--|---|--|---|

世帯数と人口の推移



敬老(70歳以上)人口と中学卒者



年度別役員表

総-総務部 文-文化部 厚-厚生部 防-防犯防火部 交-交通部 婦-婦人部 ○印は各部の部長を示す。

年度 期 間 役 職	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	
	45. 1. 18～ 46. 3. 31	46. 4. 1～ 47. 3. 31	47. 4. 1～ 48. 3. 31	48. 4. 1～ 49. 3. 31	49. 4. 1～ 50. 3. 31	50. 4. 1～ 51. 3. 31	
会 長	成田金治郎	成田金治郎	成田金治郎	成田金治郎	成田金治郎	成田金治郎	
副 会 長	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	加藤 正元	加藤 正元	
	本間 茂夫	本間 茂夫	八木沢嘉一	八木沢嘉一	大竹 庸悦	大竹 庸悦	
会 計	熊井 則彦	加藤 正元	加藤 正元	原田 富夫	田中 芳之	五十嵐長儀	
	大野 用博	原田 富夫	原田 富夫	田中 芳之	今井フチ子	松本 禮次	
会 計 監 査	大竹 庸悦	笠原 安治	横山 民徳	長尾 参治	黒田 嘉男	黒田 嘉男	
	高橋 欣也	牛久保祐治郎	善 吉一	加藤 正元	戸倉 鎮雄	戸倉 鎮雄	
顧 問					八木沢嘉一	八木沢嘉一	
					山本 正治	山本 正治	
理 事	1 区	笠原 安治	善 吉一	⊗長尾 参治	大竹与四郎	小池 豊	総 前田 敏
	2 区	⊗加藤 正元	⊗長谷川久治	榎本与三郎	上野 信行	細江 次郎	防 内田 伊彦
	3 区	八木沢嘉一	八木沢嘉一	岩内 秀行 嵩 橋	⊗依田 親治	石山 省二	防 田中 成雄
	4 区	⊗塩満 嘉夫	牛久保祐治郎	渡井 信吾	⊗山下 光久	飯塚 光正	文 田中 弘三
	5 区	徳本 米蔵	原田 富夫	⊗疋田 賢吾	米山 昭雄	小原 昇	交 栗木 邦雄
	6 区	石ヶ谷若松	⊗高橋 謙介	清水 清	戸倉 鎮雄	⊗山崎 保雄	防 三輪 美薫
	7 区	蓬田 与市	⊗蓬田 与市	宮武 克明	平松 功	⊗藤仲 博己	⊗荒川 庸夫
	8 区		横山 民徳	山岸 孝慶	夏原 浩	坂本 繁夫	文 堤 章
	9 区			秋葉 重雄	出口 勇	佐藤 隆幸	⊗坂口 峰雄
	10 区			⊗曾我 二郎	大森 清	松木 士郎	総 川部 暉正
	11 区				⊗黒田 嘉男	⊗後藤 常正	⊗稲毛 政一
	12 区				藤平 実	駒崎 明	交 加藤 毅
	13 区				⊗飯島 通	⊗渡辺 良香	文 松本 英也
	14 区				土屋 二郎	杉浦讓次郎	総 川内 惣助
	15 区					鈴藤 次夫	総 柴田 尚輝
	16 区						⊗中村 齐
	17 区						厚 小林 実
	18 区						厚 森 英治
	19 区						⊗田中 巖
婦人部部長		竹内 キノ	笠原 節子	平戸 藤枝	中村 春子	山本恵理子	
老人会長(緑会)		鈴木 米作	鈴木 米作	伊森 精	伊森 精	伊森 精	
子供会長	石ヶ谷若松	宮沢 幸子	志賀 康子	向山路得子	小室 乃美	小倉イソ子	

総-総務部 文-文化部 厚-厚生部 防-防犯防火部 交-交通部 婦-婦人部 ○印は各部の部長を示す。 ※63年より防犯交通部になる

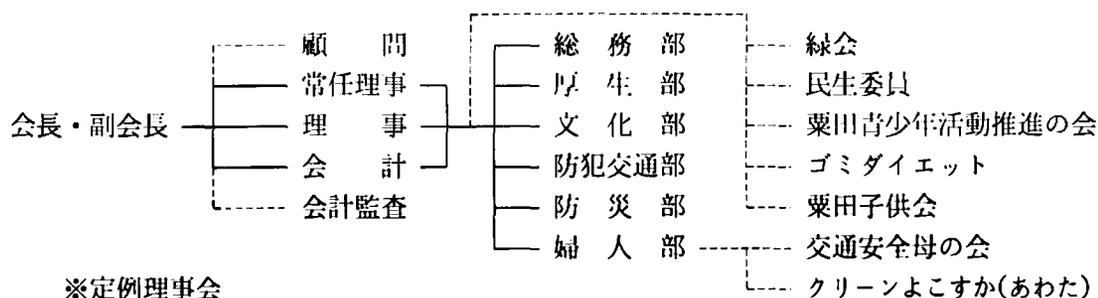
年度 期 間	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	
	58.4.1~ 59.3.31	59.4.1~ 60.3.31	60.4.1~ 61.3.31	61.4.1~ 62.3.31	62.4.1~ 63.3.31	63.4.1~ 1.3.31	
役 職							
会 長	成田金治郎	成田金治郎	岡 健治	岡 健治	近藤 幸雄	近藤 幸雄	
副 会 長	加藤 正元	山本 正治	山本 正治	山本 正治	星野 昭二	星野 昭二	
	岡 健治	岡 健治	木村 文雄	佐藤 公彦	倉持 辰治	横関 昭一	
会 計	倉持 辰治	倉持 辰治	高石 武	高石 武	高石 武	高石 武	
	篠崎 幸生	篠崎 幸生	篠崎 幸生	篠崎 幸生	工藤 研二	丹沢晃一路	
会 計 監 査	八木 清暉	八木 清暉	星野 昭二	星野 昭二	福井 隆雄	福井 隆雄	
	種橋 正亘	種橋 正亘	倉持 辰治	福井 隆雄	篠崎 幸生	篠崎 幸生	
顧 問	八木沢嘉一	八木沢嘉一	成田金治郎	木村 文雄	木村 文雄	山下 勉生	
	山本 正治	加藤 正元	加藤 正元	近藤 幸雄	岡 健治	岡 健治	
					山本 正治	山本 正治	
					佐藤 公彦	佐藤 公彦	
理 事	1 区	厚 山本 勝	⊗ 星野 昭二	⊗ 高橋 則雄	防 畑 九二夫	防 丹沢晃一路	厚 岡田 主
	2 区	⊗ 齊藤 勝則	交 加藤 治男	文 佐藤 勇夫	文 佐々木春夫	厚 藤田 功	総 佐藤 辰蔵
	3 区	厚 赤羽 俊八	厚 佐藤 忠	厚 岸 武幸	⊗ 佐藤 三男	厚 遠藤 惣市	厚 田所 肇
	4 区	交 佐藤 文俊	総 白須 吉男	⊗ 佐藤 公彦	厚 相馬義八郎	⊗ 山下 勉生	厚 葛西 勝美
	5 区	⊗ 椎野 悌一	交 井上 富雄	交 木村 文夫	⊗ 伊藤栄二郎	総 渡辺 文男	防 長沢 敏
	6 区	文 堀 輝次	文 竹内 操	文 松下 洋二	厚 畑山 勝男	交 田中 修蔵	文 金沢 広志
	7 区	文 佐藤 鉄美	⊗ 佐川 孚	総 勘場 齐	総 金子 泰三	厚 瀬戸山耕二	総 手代木速雄
	8 区	防 酒井 宏	⊗ 木村 文雄	⊗ 福井 隆雄	⊗ 坂田 章	文 宮川 信一	文 齊藤 暢弥
	9 区	総 石渡昭次郎	厚 竹井 正夫	厚 菊田 敏	⊗ 小室 俊雄	交 藤田 明	文 横田 進
	10 区	防 横山 実	防 大塚惣一郎	文 及川勝治郎	総 赤間 良美	厚 岩渕 勝典	文 小原 信男
	11 区	総 沼尾 豊夫	総 播正 誠	防 中西 正	総 萩原 ヤエ	⊗ 服部 弘	防 江上 一雄
	12 区	⊗ 沼田 勝宏	文 水上 幸雄	厚 杉山 稔	文 田島紘一郎	文 妻木 裕東	⊗ 小室 隆章
	13 区	総 中村 章弘	⊗ 井戸 敏彦	厚 桜井 孝一	厚 清水 新吾	総 井口 富平	総 亀田 正雄
	14 区	⊗ 名塚 清一	総 小野 正	総 丸上 幸成	⊗ 中村 好勝	文 笹川 洋和	⊗ 梶 芳光
	15 区	文 平塚 松重	文 沢登 良雄	⊗ 田島 満夫	交 内山 克之	総 宮沢 崇夫	総 山田 文男
	16 区	厚 桑島 馨	厚 山田 隆	⊗ 佐野 菊男	文 土山 和夫	⊗ 伊藤 嘉一	防 森宮 和夫
	17 区	⊗ 風間 勝利	防 中村 睦夫	防 平賀 真一	防 桜井 忠三	⊗ 横関 昭一	防 住岡 明一
	18 区	厚 吉沢 敏夫	⊗ 阿部日出男	総 松永 秀雄	厚 松島 澄男	⊗ 志村 正雄	防 田島 昌幸
	19 区	交 松本 孝守	厚 小谷 忠	交 能登 正昭	厚 佐藤 兼広	防 井上 正三	⊗ 齊藤不二男
婦人部部長	菅原とも子	逸見 和恵	開田 英代	山田日出子	栗原 陽子	菅原 幸子	
老人会長(緑会)	伊森 精	伊森 精	加藤 春治	加藤 春治	加藤 春治	加藤 春治	
子供会長	竹内 博子	庄司 敏子	戸矢喜美子	小川 尚子	沢田 裕子	服部 美子	
常任理事							
防災部長							

総-総務部 文-文化部 厚-厚生部 防-防犯交通部 婦-婦人部 ○印は各部の部長を示す。

昭和64年 平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
1.4.1~ 2.3.31	2.4.1~ 3.3.31	3.4.1~ 4.3.31	4.4.1~ 5.3.31	5.4.1~ 6.3.31	6.4.1~ 7.3.31	7.4.1~ 8.3.31
近藤 幸雄						
小室 隆章	星野 昭二	星野 昭二				
梶 芳光	江上 一雄	江上 一雄	千葉 実	小沢 弘	伊波 磯治	伊波 磯治
丹沢兎一路						
小原 信男						
福井 隆雄	篠崎 幸生					
篠崎 幸生	高石 武					
山本 正治						
岡 健治	岡 健治	岡 健治	江上 一雄	江上 一雄	江上 一雄	江上 一雄
星野 昭二	小室 隆章	小室 隆章				
総 鈴木 静夫	文 内田 恒男	○ 白川 清作	総 金沢 保富	総 栗原 陽子	総 柄崎 敬	防 竹内 和夫
文 半沢 透	防 鈴木 菊司	防 青地 雅隆	防 清水 光悦	文 鈴木 秀夫	厚 青木 兎	厚 宮内重四郎
○ 横井 清司	総 小沢 弘	厚 齊藤 英治	厚 山之井俊夫	総 井内 清	○ 茂木寿和夫	厚 伊藤 昭一
厚 平田 吉雄	厚 中川 清吉	総 岸 雅夫	厚 山田 敦義	防 小倉 幸男	総 今野 孝男	総 飯田 和正
防 水野 光雄	防 大野 泰雄	防 石川 徳治	防 佐々木 求	防 佐藤 好三	総 池田 長治	文 加治 省次
文 高橋 豊	○ 佐藤 謙二	厚 玉井 輝雄	総 佐藤 喜美	防 尾野 昌道	○ 柳町 陽造	総 斎藤 憲司
○ 増田 重晴	総 徳井 滙	文 阿部 是	○ 松本 禮次	総 西村 満	○ 岩崎 壽夫	文 鈴木 勉
文 加藤 進	文 植村 敬	厚 湯浅 義政	総 勝呂 功	文 土嶋 幸雄	防 本田 示	防 菅野 益好
○ 高橋 照雄	文 高柳 光男	文 桜井 正	○ 高橋 善郎	厚 長広 尚	文 斉藤 五郎	防 高沢 盛二
防 松本 良治	総 小沢 純夫	総 井波 磯治	防 角島 慧	○ 福田 正次	総 常盤きよ子	○ 山田 幸夫
○ 川本 ミヤ	厚 岩瀬 義雄	総 嵯峨野三男	防 真行寺邦明	○ 深作 和夫	○ 鮫島 保雄	○ 久保 正毅
厚 細田 好	○ 北山 秀雄	防 山崎 寿雄	文 佐々木忠治	文 石ヶ谷昭夫	文 赤羽 良次	○ 亀ヶ谷勝之助
総 高橋 金三	防 吉野 敏弘	○ 千葉 実	文 大場 孝夫	文 園府田明美	防 菅原 関夫	厚 古城 喜博
総 山田 耕徒	○ 西田 真二	文 小川 均	○ 山田 雅敏	○ 沢田 敏光	厚 野田 明	総 長沢 均
文 森山 逸夫	総 長谷川隆司	○ 小野川 明	文 倭文 守夫	総 内田 英男	文 菅原 邦明	文 吉田 実衛
厚 佐藤 馨	厚 木村木代光	○ 西村 国夫	厚 伊藤 健作	厚 梅沢 賢司	防 松本 信之	文 原 徳之
防 鈴木 泰	防 渡辺 孝一	防 梁川 輝威	文 関 博司	厚 石渡政太郎	防 横溝 邦彦	○ 村山 茂
防 宮川 勝	文 増田 豊	総 木村 弘慈	総 方波 見合	防 千葉 幹夫	厚 小林 実	総 熊坂 和男
総 郡司 好富	○ 田中 巖	文 浜田 道夫	○ 山本 文彦	○ 樋口 和孝	文 喜多 英年	防 立花 春光
関根 静江	高橋キミヨ	小林千枝子	原田 法子	宮崎 静子	岡部 瑞江	佐藤 昭子
加藤 春治	加藤 春治	大懸象治郎	大懸象治郎	大懸象治郎	大懸象治郎	大懸象治郎
柏樹 友子	竹川 高子	南 信子	早 雪代	平間志津子	西坂レイ子	阿部 知江
		加藤 春治	植村 敬	松本 禮次	松本 禮次	松本 禮次
		小沢 純夫	白川 清作	倭文 敏子	倭文 敏子	倭文 敏子
		大野 泰雄	大野 泰雄	大野 泰雄	内田 英男	岩崎 壽夫
		北山 秀雄	北山 秀雄	齊藤 英治	齊藤 英治	齊藤 英治
		植村 敬			小倉 幸男	
						小倉 幸男

年度 期 間	平成8年		平成9年		平成10年		平成11年		平成12年		平成13年	
	8.4.1~ 9.3.31		9.4.1~ 10.3.31		10.4.1~ 11.3.31		11.4.1~ 12.3.31		12.4.1~ 13.3.31		13.4.1~ 14.3.31	
役 職												
会 長	近藤 幸雄		近藤 幸雄		近藤 幸雄		近藤 幸雄		近藤 幸雄		近藤 幸雄	
副 会 長	星野 昭二		星野 昭二		星野 昭二		星野 昭二		堀 克自		堀 克自	
	岩崎 壽夫		岩崎 壽夫		堀 克自		堀 克自		勝山 登		勝山 登	
会 計	丹澤晃一路		丹澤晃一路		丹澤晃一路		丹澤晃一路		丹澤晃一路		丹澤晃一路	
	小原 信男		小原 信男		小原 信男		小原 信男		縣 雅子		縣 雅子	
会 計 監 査	篠崎 幸生		篠崎 幸生		篠崎 幸生		篠崎 幸生		松本 禮次		松本 禮次	
	松本 禮次		松本 禮次		松本 禮次		松本 禮次		岩崎 壽夫		岩崎 壽夫	
顧 問	山本 正治		山本 正治		山本 正治		山本 正治		山本 正治		山本 正治	
	江上 一雄		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎	
	小室 隆章		小室 隆章		本田 示		本田 示		星野 昭二		星野 昭二	
			本田 示		岩崎 壽夫		岩崎 壽夫		本田 示		本田 示	
理 事	1 区	厚 吉田 義治	◎ 岡本 博之	◎ 藤島 堅二	◎ 鈴木 淑雄	防 成沢 順二	防 成沢 順二	防 成沢 順二	防 成沢 順二	防 成沢 順二	防 成沢 順二	防 成沢 順二
	2 区	防 渡辺 了介	◎ 橋本 昭平	◎ 風戸 茂樹	防 今泉 五郎	文 野田 庸泰	防 今泉 五郎	文 野田 庸泰	防 今泉 五郎	文 野田 庸泰	防 今泉 五郎	防 今泉 五郎
	3 区	文 五十嵐義雄	文 五十嵐義雄	文 清水 宏	文 多田 一幸	厚 山本 利光	厚 山本 利光	厚 山本 利光	厚 山本 利光	厚 山本 利光	厚 山本 利光	厚 山本 利光
	4 区	総 緒形 敏英	防 二階堂 治	防 阿比留正議	◎ 荒井 洋征	文 南 進	◎ 竹村 吉治	◎ 竹村 吉治	◎ 竹村 吉治	◎ 竹村 吉治	◎ 竹村 吉治	◎ 竹村 吉治
	5 区	防 新海 昌	防 高野 房人	文 新倉 清次	厚 竹沢 忠雄	◎ 越村 了	◎ 越村 了	◎ 越村 了	◎ 越村 了	◎ 越村 了	◎ 越村 了	◎ 越村 了
	6 区	防 下山 定雄	防 大沢 暢夫	総 塚越 実	防 園田千恵子	総 小野さち子	防 八代 孝男	防 八代 孝男	防 八代 孝男	防 八代 孝男	防 八代 孝男	防 八代 孝男
	7 区	文 高野 勝男	◎ 伊勢谷幸一郎	◎ 酒井 良憲	◎ 岡 勇治郎	厚 山田 哲夫	厚 新井田勝彦	厚 新井田勝彦	厚 新井田勝彦	厚 新井田勝彦	厚 新井田勝彦	厚 新井田勝彦
	8 区	◎ 西野 英子	厚 宮沢 育子	文 片岡 龍三	文 白市 軍次	厚 富永 澄子	総 岩崎 進一	総 岩崎 進一	総 岩崎 進一	総 岩崎 進一	総 岩崎 進一	総 岩崎 進一
	9 区	文 北村 政一	厚 宮田 守	厚 大野 泰信	厚 陸川 靖夫	◎ 秋山 実	文 上村 英夫	文 上村 英夫	文 上村 英夫	文 上村 英夫	文 上村 英夫	文 上村 英夫
	10 区	総 長谷川隆一	総 須藤 久	◎ 松本 紘二	防 安斎マサ子	総 田中 智子	文 上野 修平	文 上野 修平	文 上野 修平	文 上野 修平	文 上野 修平	文 上野 修平
	11 区	◎ 堀 克自	厚 八重垣 皋	総 村山善二郎	総 穴戸献吉郎	◎ 井上富士男	防 小野寺久子	防 小野寺久子	防 小野寺久子	防 小野寺久子	防 小野寺久子	防 小野寺久子
	12 区	厚 梶谷 優	文 北田 幸照	厚 白砂 三雄	厚 沼里 昌子	防 斎藤 哲雄	◎ 小倉 耕一	◎ 小倉 耕一	◎ 小倉 耕一	◎ 小倉 耕一	◎ 小倉 耕一	◎ 小倉 耕一
	13 区	総 吉川 保	防 駒崎 明	厚 吉沢 鋭郎	総 片桐 和夫	文 田中 一三	文 須藤 亮一	文 須藤 亮一	文 須藤 亮一	文 須藤 亮一	文 須藤 亮一	文 須藤 亮一
	14 区	総 吉田 輝義	文 藤平 康裕	厚 伊藤 晴	厚 榎本 雅成	防 加藤 強	◎ 川内 徹三	◎ 川内 徹三	◎ 川内 徹三	◎ 川内 徹三	◎ 川内 徹三	◎ 川内 徹三
	15 区	厚 三宅 瑞子	◎ 本間 八郎	総 井上 茂	文 中沢 進司	総 北川 宏昭	◎ 高橋 巖	◎ 高橋 巖	◎ 高橋 巖	◎ 高橋 巖	◎ 高橋 巖	◎ 高橋 巖
	16 区	◎ 西内 敦	総 菱沼 史弘	防 井上アサ子	総 渡辺 俊男	文 武内 文雄	総 屋代 忠昭	総 屋代 忠昭	総 屋代 忠昭	総 屋代 忠昭	総 屋代 忠昭	総 屋代 忠昭
	17 区	文 渡辺 照夫	総 飯塚 貞	防 佐藤 悦子	◎ 丹地 博	総 相原 繁治	文 山口 義雄	文 山口 義雄	文 山口 義雄	文 山口 義雄	文 山口 義雄	文 山口 義雄
	18 区	◎ 加藤 秀晴	文 小玉 優	文 佐藤 光明	文 本間 健一	厚 落合 賢一	厚 金子 勤	厚 金子 勤	厚 金子 勤	厚 金子 勤	厚 金子 勤	厚 金子 勤
	19 区	防 岡崎 憲二	総 松川 忠弘	総 谷島 陽子	総 新宮 茂	◎ 池田 幸雄	総 稲永 純子	総 稲永 純子	総 稲永 純子	総 稲永 純子	総 稲永 純子	総 稲永 純子
婦人部部長	梅村 玲子		酒井 美穂		村山すま子		縣 雅子		馬場エイ子		土嶋 純子	
緑会会長	大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎		大懸象治郎	
子供会会長	佐藤かおる		田中久美子		錦織あずさ		成田 尚美		大和田 清美		酒井 順子	
常任理事	本田 示		駒崎 明		駒崎 明		駒崎 明		駒崎 明		飯田 和正	
	加治 省次		加治 省次		加治 省次		柳町 陽造		柳町 陽造		駒崎 明	
	飯田 和正		飯田 和正		飯田 和正		飯田 和正		飯田 和正		沼里 昌子	
	斉藤 英治		斉藤 英治		斉藤 英治		清水 宏		沼里 昌子		馬場エイ子	
	佐藤 昭子		佐藤 昭子		佐藤 昭子		佐藤 昭子					
防災部長	小倉 幸男		小倉 幸男		小倉 幸男		小倉 幸男		加治 省次		加治 省次	

町内会の組織



※定例理事会

毎月第3日曜日 10:00～12:00

各部の活動

総務部

1. 総会・理事会運営
2. 「栗田だより」発行
3. 敬老祝賀会の実施
4. 新成人者に記念品贈呈
5. 中学卒業者に記念品贈呈

厚生部

1. ゴミ類の管理・集積所の整備
(ネット、看板の補修 積み残し対策)
2. 各種募金の集金・納金
3. 町内レクリエーションの実施

文化部

1. 納涼大会の実施
2. 文化祭の実施
3. 健民運動会への参加
4. 青少年活動推進の会に協力

防犯交通部

1. 防犯街路灯の整備補修
2. 納涼大会の通路許可申請
3. 町内交通標識等の整備
4. 不在地主所有地の除草依頼
5. 町内に必要な防犯・交通に関する活動

防災部

1. 消火器の点検(各理事が毎月実施)
2. 防災部役員会議
3. 防災資器材購入
4. 防災訓練
5. 防災資器材の点検・操作訓練の実施
6. 横須賀市防災関係行事に参加
7. 横須賀市自主防災組織協議会行事に参加
8. 広域避難場所への避難訓練の実施

婦人部

1. 町内会主催行事に協力
2. 青少年活動推進の会行事に協力
3. 地区懇談会の開催
4. 物品販売幹旋
5. 栗田バス停周辺の清掃
6. クリーンよこすかの行事に参加
7. 交通安全母の会の行事に参加
8. 講習会の実施
9. 緑会資源回収に協力

お わ り に

自然環境の良いここ栗田を人生の定住地として、選択された方は数多くいるのではないのでしょうか。

栗田で産声をあげた赤子も既に三十路に入り、次世代を担う一翼となっています。

さて、今回30周年記念誌の編集にあたり過去に発行された記念誌を参考とさせて頂きました。

今回の特色は、栗田の皆さんが仲良く、そして明るい住みよい町づくりを目指して、同好会等に沢山の人が参加され、趣味を通じて友達の輪が広がることを願い、紙面を割いて詳しく掲載しましたが、バランスの関係から一部割愛させて頂いたことをお詫びいたします。

また、先輩の方の為に活字を大きくし読みやすくいたしました。

最後になりましたが、30年誌の発行にあたり寄稿や資料提供された皆様及び、三邦印刷桜井氏(2-20-10)には、編集委員一同より深く感謝し、御礼申し上げます。

松 本 禮 次

(資料提供者)

栗田小学校
野比中学校
荒川 数徳 (写真提供)
真壁 暉人 (写真提供)
渡辺 庸八 (写真提供)

(編集委員)

近 藤 幸 雄 山 本 正 治
沼 里 昌 子 松 本 禮 次
小 野 さ ち 子 中 村 斉
縣 雅 子 稲 永 純 子
小 原 信 男

—敬称略・順不同—

ご協力ありがとうございました。

わがまちあわた 30周年記念

平成14年2月発行

編集・発行 粟田町内会
代表 近藤幸雄

印刷所 三邦印刷(桜井忠三)
茅ヶ崎市南湖1-8-19
TEL 0467-85-1667
(自宅) 0468-48-3787

